

関西支部だより

時習館

かんさい

第26号

〒542-0081 大阪市中央区南船場 1-14-1
山本通産株式会社内

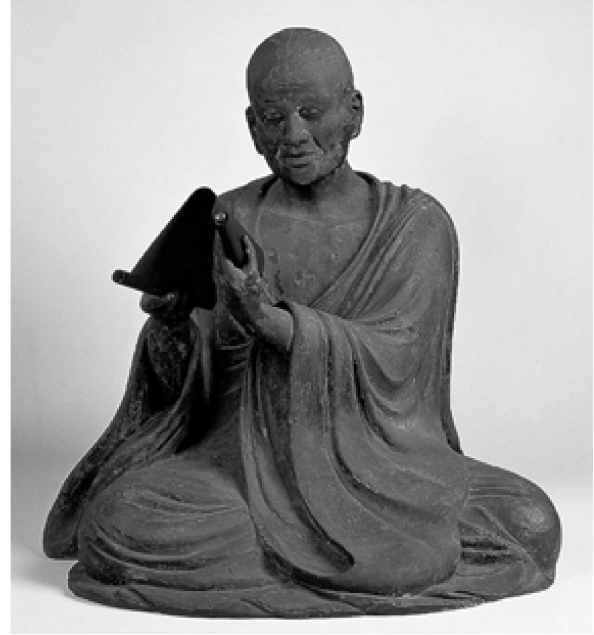
時習館同窓会関西支部発行

TEL (06)6252-2131

FAX (06)6261-2020

E-mail ishikawa@ytc-j.co.jp

振替口座番号 00960-3-32608



六甲山ホテル及びホテルよりの神戸の街全景 撮影 松井誠一郎氏（時習 27）

関西支部総会開催 平成24年6月10日(日) 12時00分～16時00分

第46回 時習館同窓会関西支部総会ならびに懇親会を、来る6月10日(日)、神戸の街が一望できる六甲山ホテルで開催いたします。懇親会では講演に引き続き、ジャズ発祥の街神戸に因み、ジャズ演奏を聞いていただきたいと思っております。

会員の皆様のご参加をお待ちしています。

記

と き：平成24年6月10日(日) 12:00～16:00

と ころ：六甲山ホテル

会 費：10,000円（学生 3,000円）

もくじ

「学びて時に之を習う、亦説ばしからずや」	石川吉之助	1
〈支部総会など〉		
平成23年度支部総会・懇親会&観光スナッフ		2
平成23年度総会出席者リスト・平成23年度分年会費納入者		5
平成22年度会計報告及び平成23年度時習館同窓会関西支部役員		7
時習館同窓会関西支部第45回総会・懇親会の報告	鈴木 茂樹	8
元気な神戸の街へ！（第46回時習館同窓会関西支部総会に寄せて）	大石由紀子	11
〈特別寄稿〉		
時習館だより「愛知大会、中京大中京戦」	時習館高等学校教諭 林 哲也	13
時習館高校創立120周年記念事業	時習館同窓会本部 飛松 孝司	15
〈特集記事、がんばれ日本！神戸から〉		
震災に揺れたあのととき	花井 俊作	17
神戸誕生物語	熊谷 信哉	19
東日本大震災の被災地を訪れて	鬼本英太郎	24
〈特別企画、青春の思い出対談〉		
青春の系譜…サッカーに打ち込んだあの頃	福井 英輔 & 鈴木 優	29
〈会員だより・乗り越える力〉		
思い出あれこれ（関西支部活動の歴史から）	杉浦 昭典	33
「随想」洗濯からの連想	春山 丈夫	35
長き関西 京都での生活から	中村 和歳	37
バプアで教育支援	菅原 民生	40
幻の兄、シベリア抑留中に死す！	鈴木 茂樹	43
歌と私（「歌の力」に勇気づけられて）	藤巻 篤子	47
薬の知識と健康管理	岡田 順子	51
感謝を込めて（息子と仕事ができる喜び）	横井 愛子	53
阪神・淡路大震災の翌日の衝撃	宮崎 裕二	55
手術的交響楽	松井誠一郎	56
女性の社会進出について	藤井 順子	57
からだを動かすこと	熊本 和正	59
日本でいちばん楽しい学校で	鈴木 慶太	61
受賞作品特別掲載 送り主のない贈り物	奥山 真理	63
〈支部だより・活動報告〉		
東京支部より…関西支部総会・懇親会に出席して	吉福 ゆかり	65
JKL便り 時習館関西女性の会	美馬 洋子	67
ゴルフ同好会からの報告	山村 信哉	68
「時習さろん」開催報告	事務局	69
〈お知らせ〉		
事務局からのお知らせ、会員の動静		71
先輩からの温かい援助&『時習館かんさい』へ投稿してみませんか		73
編集余話		74

『学びて時に之を習う、 亦説ばしからずや。』

～時習館魂、今こそ発揮を～



時習館同窓会関西支部

支部長 石川 吉之助（時習 12）

東日本大震災という大災害を前に、阪神・淡路大震災を経験した我々も含めだれもが立ち尽くしたあの日から1年。日本は復旧復興をめざして動き出しています。

そんな今、我々日本人のアンデンティティ、人の絆の重要性が再認識されています。

幸いにも私達は時習館の庭に学び、語り合った、かけがえのない^{とき}時間を世代を乗り越える三河人の絆を共有し、共感しています。そして見直そう、今この時代に生きている意味を、ひとりの人間としてなすべきことを。

『学びて時に之を習う、亦^{よろこ}説ばしからずや。

朋有り、遠方より来る、亦^{よろこ}樂しからずや。

人知らずして^{いきどお}慍らず、亦君子ならずや。』

孔子は 2500 年も前の人物ですが、それよりずっと前に書かれた書物を読み、学んだ人です。

「まずは自分が志高く生きる。自分が志を持って主体的に生きるのが第一義、他人の評価はその次ということ。自分のことを誰かに評価して欲しいという気持ちは努力している時程強くなり、その分、評価されなかった時の落胆は大きい。人間は欲望のかたまりなのでついついその罠に陥りがちだが、それでは君子と言えない」と教えています。

シュリンクした日本経済力、閉塞感漂う社会にあって、時習生魂が今こそ発揮される事を期待します。

平成23年度

総会・懇親会

スナップ



支部長挨拶



来賓挨拶 林校長 福井副会長 大林幹事長



受け付け風景



総会開始前 太閤園の庭を散策する女性会員
岩田さん 大林さん 尾野さん 森下さん



総会開始前 ロビーでくつろぐ
近田(良)氏と春山氏



J K L活動予定説明
美馬さんと大石さん



会計監査報告
花井会計と山村監査



太田房江さんを囲んで支部長と林校長



鈴木優氏

講演



花束贈呈
奥山さん

つばさ・きよしの
漫才



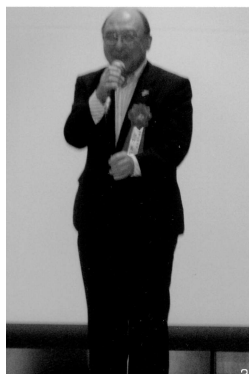
講演に聴き入る会員



漫才を楽しむ会員



東京支部
宮津まりこ副支部長



名古屋支部
神野義郎支部長



乾杯の挨拶
太田房江さん



大林さん、美馬さんら談笑中



年次を超えて久しく交流



太田房江さんと時習 26 回生



時習 15&16 回生
吉田氏、藤田氏、高柳氏



若手会員
藤井さん、近田(昇)氏、福田さん



時習 21 回生
竹内氏、米田さん、横井さん、利根川氏



時習 14 回生 7人衆



福田さんと竹内氏の
ツーショット



近田(良)氏と佐藤氏談笑中



時習 13 回生
右は小田さんによるミニ畳
プレゼント



司会者：竹内氏と横井さん



名古屋支部長と本部役員の方
清水さん、神野氏、大沢氏



懇親会風景



松浦氏、河合氏
岡田さん、夏目さん、花井氏



藤巻さんによる
独唱



山村氏、白井氏、蒔田氏



鳥山氏、春山氏、杉浦氏



時習館グッズ販売風景



三井さん、鈴木（茂）氏
飛松先生、平野さん



森田氏



福井氏



会員 近況報告
菅原氏



春山氏



松井（誠）氏



美馬さん、宮津さんの音頭で校歌斉唱



豊中校歌斉唱



手をつないでの万歳三唱



熊本氏、近田（昇）氏、飛松先生による
万歳三唱

平成 23 年度時習館同窓会関西支部 総会・懇親会出席者

(平成 23 年 6 月 5 日)

本部来賓

副会長	清水 宏子	(時14)	副会長	福井 英輔	(時26)
常任理事	鳥山 勇	(時19)	幹長長	大林 淳男	(時 2)
理 事	佐藤 元彦	(時 1)	幹 事	平野 朝子	(時14)
監 事	小林 佳雄	(時19)			
顧 問	林 蒼樹 校長先生		校内幹事	木藤 政美 教頭先生	(時31)
校内幹事	飯田 浩祥 先生	(時26)	校内幹事	飛松 孝司 先生	(時30)

東京支部より 東京支部副支部長 宮津 まり子 (時11)
 名古屋支部より 名古屋支部支部長 神野 義郎 (時 3)

(回) (氏 名)	(勤 務 先)	出身小・中学校	(回) (氏 名)	(勤 務 先)	出身小・中学校
(豊 中)			(時習館)		
47 杉浦 昭典			17 白井 一次	摂生法律事務所	国府小西部中
47 春山 丈夫	春山技術士事務所	新川小	17 花井 俊作	アサヒ産業(株)	松葉小豊城中
49 福井 信雄		松葉小	17 山村 信哉	医療法人甲聖会	豊川小東部中
(時習館)			18 熊谷 信哉	神戸新聞社	愛教大付属中
1 近田 良治		一宮村東部小豊橋中	19 三井 節子	日本舞踊若柳流 師範	松葉小豊城中
6 大林 冷子		松葉小豊城中	20 岡田 順子	みどり会中村病院薬剤部長	松山小中部中
8 岩田 孝枝		新川小中部中	20 河合 行朗	クローダジャパン(株)	新川小中部中
8 尾野あつ子		池場小三輪中	20 松浦 茂男	凸版印刷加工 (株)	高師小南部中
8 森田七三郎			21 竹内 隆夫	竹内総合法律事務所	三谷小・中
9 中村 和歳		牟呂小牟呂中	21 利根川 躍	三菱UFJロビンソン (株)	大崎小南陵中
10 大石由紀子	Tada Parking Lot	松葉小豊城中	21 横井 愛子	株式会社 諸国美味	福岡小南部中
11 菅原 民男			21 米田 隆子		向山小中部中
11 成田 一郎	海技大学校 客員教授	蒲郡東部小蒲郡中	22 太田 房江	エア・ウォーター (株) 取締役	羽田中
11 美馬 洋子		蒲郡南部小蒲郡中	22 夏目えり子	八尾市立高見小学校	東田小青陵中
12 石川吉之助	山本通産 (株)	蒲郡南部小豊城中	24 蒔田 渡	大阪商工信用金庫	豊川小豊川東部中
12 鈴木 茂樹	(株)カバーオールジャパン	新川小中部中	25 森下 庸子	共栄製茶 (株)	栄小南部中
13 荒島 康守			26 大谷 昌代		
13 伊藤 忠男	(株)丸島アクアシステム	小沢小五並中	26 菰田佐知子		旭小青陵中
13 小田 宗		蒲郡南部小蒲郡中	26 鈴木 優	関西テレビ放送 秘書室長	
13 戸苺 保		豊川中部小豊川南部中	26 長坂由美子		
13 森下 宣彦		東田小青陵中	26 吉福ゆかり	東京支部事務局	
14 石田 天祐	(株) ギルガメシュ	森小湖西中	27 松井誠一郎	整形外科医	
14 片岡 聡子		松葉小豊城中	28 藤井 順子	(有) カナルプランニング	栄小南部中
14 川瀬 義隆		三島小石巻中	30 奥山 真理	奥山学園	向山小中部中
14 藤巻 篤子	木戸クリニック・眼科医	新潟県小青陵中	31 熊本 和正	近畿大学経済学部	向山小豊岡中
14 古田 啓子		二川小・中	35 近田 登	(株) 関西メディカルネット	一宮東部小一宮中
15 藤田 和弘	関西ペイント (株)	松山小中部中	46 福田 悦子	大坂市役所	豊岡中
15 吉田 久善	協和道路 (株)	八丁小豊城中			
16 坂部 征彦		新城小・中			
16 高柳 枝直	大阪産業大学 客員教授	豊城中			
			漫才師	(特別招待) つばさ・きよし	吉本興業

平成23年度分 賛助金・年会費納入者

平成23年度分 賛助金納入者

河合 程一 (豊41)	伴 正義 (時4)	富安 淳夫 (時9)	荒島 康守 (時13)
四方 健一 (豊44)	藤村 恵子 (時4)	中村 和歳 (時9)	伊藤 忠男 (時13)
藤井 敏男 (豊45)	山本 豊 (時4)	大石由紀子 (時10)	小田 宗 (時13)
野村 昭彦 (豊46)	長田美智子 (時4)	成田 一郎 (時10)	小野 英道 (時13)
杉浦 昭典 (豊47)	鳥居慎一郎 (時5)	美馬 洋子 (時11)	白井 孝夫 (時13)
藤田 彰久 (豊47)	水尾 悦子 (時6)	八幡 寿子 (時11)	中山 憲次 (時13)
春山 丈夫 (豊47)	高野 淳子 (時7)	石川吉之助 (時12)	新見 貞子 (時13)
青木 邦彦 (豊47)	森田七三郎 (時8)	岡本 豊生 (時12)	舟橋 卓哉 (時13)
福井 信雄 (豊49)	岩田 孝枝 (時8)	近藤 修 (時12)	松尾 英城 (時13)
花田 庄司 (豊49)	尾野あつ子 (時8)	菅谷 智明 (時12)	森下 宣彦 (時13)
近田 良治 (時1)	片岡優美子 (時8)	鈴木 茂樹 (時12)	
高橋美知子 (時3)	松尾 昌子 (時9)	山下 洋子 (時12)	

平成23年度分 年会費納入者

石田 天祐 (時14)	井上 亮二 (時18)	鈴木 清士 (時21)	田中紀代子 (時25)
遠藤 征宏 (時14)	草尾 正治 (時18)	鈴木 省三 (時21)	森下 庸子 (時25)
片岡 聡子 (時14)	熊谷 信哉 (時18)	鈴木 晴久 (時21)	菰田佐知子 (時26)
川瀬 義隆 (時14)	鈴木 康浩 (時18)	竹内 隆夫 (時21)	和泉 裕子 (時27)
権田 知弘 (時14)	堂本こすぎ (時18)	利根川 躍 (時21)	北川 井子 (時27)
園家 文 (時14)	宮路くに子 (時18)	藤田裕二郎 (時21)	遠山 育夫 (時27)
藤巻 篤子 (時14)	宮城 治夫 (時18)	横井 愛子 (時21)	不破 靖 (時27)
古田 啓子 (時14)	富山 幸世 (時19)	米田 隆子 (時21)	松井誠一郎 (時27)
柵木 昇祥 (時14)	鳥山 正史 (時19)	太田 房江 (時22)	藤井 順子 (時28)
三浦 伸吾 (時14)	内藤 建 (時19)	河野 法子 (時22)	藤本富士子 (時28)
藤田 和弘 (時15)	内藤 壮一 (時19)	夏目えり子 (時22)	奥山 真理 (時30)
山崎 達彦 (時15)	福重 恭子 (時19)	西井 完 (時22)	菊井 昌代 (時30)
吉田 久善 (時15)	福田 明 (時19)	羽賀 知行 (時22)	棕木紀美江 (時30)
坂部 征彦 (時16)	三井 節子 (時19)	伊與田 功 (時23)	熊本 和正 (時31)
高柳 枝直 (時16)	武藤 栄一 (時19)	神谷 祐司 (時23)	直里 伸雄 (時34)
村田 正好 (時16)	河合 行朗 (時20)	池内 真弓 (時24)	山本 政義 (時34)
山田 秀司 (時16)	松浦 茂男 (時20)	瀬野 敦子 (時24)	小松麻利子 (時35)
宇井 正和 (時17)	田中 登 (時20)	高野 光代 (時24)	近田 昇 (時35)
白井 一次 (時17)	岡田 順子 (時20)	竹内 光一 (時24)	鈴木富美子 (時36)
花井 俊作 (時17)	三村 和男 (時20)	中根巳貴男 (時24)	西川 栄子 (時37)
不破 文夫 (時17)	山口真知子 (時20)	蒔田 渡 (時24)	鈴木 慶太 (時38)
山村 信哉 (時17)	岩本 昇 (時21)	宮崎 裕二 (時24)	福田 悦子 (時46)
吉岡 順子 (時17)	梅田 洋一 (時21)	山本 雄二 (時24)	伊藤このみ (時52)
池田 和子 (時18)			

(本誌作成着手以降にお振り込みいただいた方については、正確でない場合が考えられますので、その際にご容赦願います)



平成23年5月28日 第一回「時習さろん」
「総会前夜祭」



平成23年11月6日
第三回「時習さろん」から
「秋祭り」

会計報告書 平成22年度

(収入の部)		(支出の部)	
前期繰越金	1,117,767	総会費 (奈良ホテル)	707,377
総会会費	890,000	印刷代	287,988
年会費	222,000	通信費	81,133
支部育成費 (本部より)	150,000	出張費・交通費	102,730
賛助金・寄付金 (58名分)	159,000	他支部交流費	19,000
雑収入	8,000	送金手数料	16,587
普通預金利息	289	雑費	82,377
		次期繰越金	1,249,867
(合計)	2,547,056	(合計)	2,547,056

以上のとおりであります。

平成23年5月2日 会計 花井 俊作

平成22年度の事業の収支報告について、会計帳簿ならびに証憑書類について監査した結果、その収支および取り扱い方法は適正に執行されていたと認めます。

平成23年5月2日 監事 山村 信哉

平成23年度 時習館関西支部役員

顧問	監事															理事	事務局長			副支部長	支部長																	
杉浦	中村	春山	山村	花井	木奥	阿山	北川	森下	宮崎	瀬野	中西	米田	横井	松根	利根	鈴木	長野	岡田	三井	堂本	鈴木	井上	高大	古柳	園田	柵家	尾野	大野	伊藤	竹内	坂田	石田	片岡	鈴木	美馬	大石	石川	
達昌	和歳	丈夫	信哉	俊作	到真	津美	阿久	井下	庸裕	敦二	立美	隆愛	愛譲	川久	晴久	鈴代	行功	節子	すき	康浩	亮二	枝直	宏明	啓子	啓文	昇祥	つ子	治子	忠男	隆夫	征彦	天祐	聰子	茂樹	洋子	紀子	石之助	
(時25)	(時9)	(時47)	(時17)	(時17)	(時37)	(時30)	(時30)	(時27)	(時24)	(時24)	(時23)	(時21)	(時21)	(時21)	(時21)	(時20)	(時20)	(時19)	(時18)	(時18)	(時18)	(時16)	(時15)	(時14)	(時14)	(時14)	(時14)	(時8)	(時6)	(時13)	(時21)	(時16)	(時14)	(時14)	(時12)	(時11)	(時10)	(時12)



平成23年11月6日
第一回定例役員会風景 於：エル大阪



平成24年2月4日
第二回定例役員会風景 於：エル大阪



「大阪・浪花らしさ」演出 関西支部第45回総会・懇親会の報告



関西支部副支部長 鈴木 茂樹（時習 12）



平成23年度の関西支部総会・懇親会が6月5日（日）、大阪城を望む「太閤園」で開催されました。前年度、初めての奈良での総会が折からの平城遷都1300年イベントと同時期に開催されたこと、会場が有名な「奈良ホテル」であったことで100名近くの参加者が集い、大成功を収めました。

その後を引き継いでの大阪開催となった訳ですが、メインテーマ「ふるさとと我が町」に沿った「おおさか・浪花らしさ」を演出したいとの思いを秘めて準備に入りました。

〇こだわった会場選び

奈良ホテルに比肩し得る開催場所はどこか。猛暑の名残がある10月ごろから会場選びに入り、11月に開催された役員会の席上、私から「太閤園」の名を挙げさせていただきました。私事で恐縮ですが、私が再婚した妻方の親戚一同へのお披露目を太閤園の淀川邸で催してくれたこともあり、女房が「太閤園はどう？」と言ったのがきっかけでした。また、以前勤めていた会社の部下の結婚式で2回ほど訪れて知っていたこともあります。

とは言え、ジューンブライド結婚シーズン真っ盛りの6月の日曜日が開催予定日。大阪の結婚式場として超有名な施設なので困難を極めました。国際ビジネスマンとして活躍する石川吉之助支部長の応援で開催決定にこぎ着けました。

〇美術の宝庫 藤田美術館

太閤園の敷地内にある「藤田美術館」には、幕末から明治にかけて活躍した関西の財閥、藤田男爵と、その子らが集めた国宝級の美術品が展示されており、一見の価値があります。商都大阪のど真ん中にありながら都会のオアシスともいえる回遊式日本庭園も見事であり、「ここなら、皆さんにゆったりとした気分で楽しんでいた

だけではないか」と考えました。



当日、70枚用意した藤田美術館の入場券から見積もって57名の方が鑑賞されたと思います。ただ、総会開始の正午までに美術館と庭を両方ゆっくりと巡るには少し時間が足りなかったでしょうか。

〇天候に恵まれた総会当日

太閤園担当者との第1回目の打ち合わせは12月初旬の小春日和、庭の真っ赤な紅葉が池に映える日曜日でした。幸い6月5日の総会当日も梅雨シーズンとはいえ雨も降らず、鮮やかな緑が眼にまぶしい好天に恵まれました。

総会は正午から竹内隆夫・副支部長（時習 21）の司会で始まりました。石川支部長が「目まぐるしく変わる世の中だからこそ、改めて『温故知新』を思い起こし、時習館同窓会の絆を大切にしよう」と、ゆったりとして囁んで含めるような調子であいさつ。続いて福井英輔・同窓会本部副会長（時習 26）が登壇。ちなみに26回生は合計8名が出席する大軍団で、存在感を強烈にアピールしていました。

〇東大・鈴木翔太君の活躍に感激

引き続き、母校の林 誉樹校長先生から恒例の母校現況報告がなされました。特に東大へ現役入学、野球部で1年生ながら大活躍した鈴木翔太君について時間を割き、詳しく話されました。

「鈴木君は秋の六大学リーグ戦・早東戦に登板し、今

やプロになった斎藤佑樹、大石達也投手に投げ勝ち、歴史に残る勝ち星を東大に、もたりました。OB平田超人氏(時 4)が執筆された観戦記『後輩 鈴木翔太君の活躍』は迫真の試合展開、スタンドの熱気が伝わってくる小冊子です。

今年初め、私のところへあいさつに来た鈴木翔太君は『プロに行きます』と明言。4年後のプロ野球が大変楽しみです。また、英国のセントポールズ校との交流も一層軌道に乗ってきましたなどと語られました。校長先生のお話を聞き、先輩としても何か誇らしい気分になったのは私だけではなかったことでしょう。

続いて会計報告(花井俊作さん=時習 17)、監査報告(山村信哉さん=時習 17)を承認、事務局を長年お世話になった朝日奈特許事務所から、石川支部長が経営する山本通産(株)に置くなどの規約改定を承認。2年後に同窓会 120 年祭を迎えることが大林敦男・幹事長(時習2)から報告されました。

また伊藤忠男・事務局長(時習 13)らから今後のタイムスケジュールなどが発表されました。24 年総会会場は神戸です。17 年前に起きた阪神・淡路大震災から見事復興した神戸での開催を踏まえて「がんばろう！日本神戸から。関西から」をメインテーマに進めていくことが承認されました。

○「上方文化」について講演聞く

今回の総会の目玉と言える特別記念講演の講師は、鈴木 優・関西テレビ社長室長(時習 26)。「上方文化の来し方・行く末」。副題は“VIPer”(ビッパーでいこう!)と題して、とっておきのエピソードをたっぷり披露してくれました。

鈴木氏は「上方文化」を5大特色、《逞しさ = Vitarity》《国際性 = International》《庶民性 = Popular》《色気 = Eroti》《夢 = Romantic》ととらえ、これを簡にして要を得たキーワード「VIPer」として解説してくれました。見事という他はありません。

会場で参加者に配られた手製の小冊子は、演劇、文学、音楽、映画など8つのジャンルに分けて解説されて上方文化が凝縮された内容の濃いものであり、「大阪人一大阪に住む者」として大いに啓発されました。

中でも印象に残ったのは、音楽の部。在阪4つの交

響楽団の運営が橋下知事(当時)の財政見直しのあおりを受けて困っているという現状。「太田知事時代は文化行政に理解があり、援助体制が整っていた」と、思わず洩らす場面も。折から会場に姿を見せていた元大阪府知事の太田房江さん(時習 22)にエールを送った格好となりました。

鈴木氏の講演は半時間程度で、全国に誇れる「上方文化」のほんのさわりの部分しか披露して頂けず、場所と時間を変え、改めてお話を聞きたい、との思いを強めました。

講演終了後、中堅漫才師、つばさ・きよしコンビの特別招待席を同窓会会場で実現してくれるという“サプライズ”も加わり、会場は大いに盛り上がりました。関西支部の総会で、プロの興行は初めての試みであり、大阪の雰囲気をも十分に堪能していただけた、と思います。さすが関西テレビで鳴らした鈴木さん、吉本興業にもコネクションがあるのですね。これを機に、桂 三枝、西川きよし、大助・花子らがトリで出る京橋花月に足を運んでみてはいかがでしょうか。大体、予約なしで席があります。ある漫才師曰く、「座わられている場所はいつも満席ですが！」

○太田房江さんが乾杯の音頭

さて、笑って、しゃべって楽しく過ごしているうちに時間が押してしまい、予定より 30 分ほど遅れて、第2部の懇親会に移りました。司会は竹内さんと横井愛子さん(時習 21)。実行委員長の私、鈴木茂樹(時習 12)が開会のあいさつに立った後、午後2時過ぎまで飲まず食わずで我慢していただいていた皆さんに待望の乾杯の時が訪れました。乾杯の音頭を取っていただいたのは、太田房江さん。『時習館かんさい』25号に「農業への挑戦」と題して寄稿していただきましたが、乾杯に先立つごあいさつの中で「あるところで行政に携わり、第二次・第三次産業分野を経験しましたが、今は民間の会社の取締役として第一次産業の農業、しかも、最先端に行くこれからの日本の農業のあるべき姿を追い求めています」と、最近の情報を提供されました。そして、ご発声。一同、声高らかに「かんぱ〜い!」。ああ、やっとなビールにありつけました。

○どんな料理が並ぶ？

私、会場担当としては、太閤園にテーブル・ビュッフェスタイルでお願いしましたが、果たして、どんな料理が出てくるのか、最後まで気懸かりでした。開催日が近づいた5月下旬、最終打ち合わせで、担当窓口のマネージャーから「何か料理へのご注文はありますか」と聞かれましたので「去年の奈良ホテルの料理は豪華で美味しかった、と評判でした。奈良らしさを演出するため、柿の葉ずしと三輪そうめんが出ていたかな？」と、さりげなくプレッシャーをかけ、「大阪らしさを出すために、たこ焼きやお好み焼きをお願いするわけには行かないでしょう。すべて、太閤園さんにお任せします」と言ってきた手前、どんな料理が供されるのか少々不安でもありました。

総会当日、料理の印象を石川支部長に聞いてみようと「前菜から果物、ケーキまで、品数と料理のバラエティ、味、見栄えもまずまずじゃあないでしょうか」との感想。皆さんは如何だったでしょうか。テーブルごとに数種類の刺身と鯛の活造りが盛られ、大阪らしさといえば、梅を練りこんだ冷やしうどんが出されたのは、ある程度、プレッシャーが効いたかな、と思いました。

神野義郎・名古屋支部長(時習3)のあいさつに引き続き、宮津まり子・東京支部副支部長(時習 11)から「関西支部総会・懇親会の企画の素晴らしさ、会員の絆の深さは、いつ来ても印象に残ります」とお褒めの言葉を頂き、恐縮しました。

○盛り上がった懇親会

続いて、懇親会のメインイベント・藤巻篤子さん(時習14)による歌のアトラクションが始まりました。当日、朝 10時からステージでマイクと音響効果の調整とリハーサルを入念にしておられましたが、本番では、松田聖子ちゃんが着るような目にも鮮やかなピンクのドレスを身に着け、シャンソン・ろくでなしをレゲエ調にアレンジした歌声に乗せて軽くステップを踏みながら登場、シャンソンあり、歌謡曲あり、ポップスありで、我々にもよく耳慣れた曲を多く披露していただきました。

関西支部の時習 14 回の同期は大声援を送っていましたが、藤巻さんの追っかけファン・石田天佑さんは舞台の下まで駆け寄って握手を求めるシーンも。遠路はるばる富山から来ていただき、楽しませていただきました。

本当にありがとうございます！また、お願いします。司会の山村さんが「今のはちょっとボサノバ調にアレンジされていましたね」などと、こちらも名調子でした。

“アーティスト”藤巻歌手の“付き人”をされた奥山真理さん(時習 30)、ご苦労様でした。

恒例になった会員の方々の近況報告では、豊中出身の大先輩の元気溢れるごあいさつや、初参加者の自己紹介があり、懇親会も終盤へと。

全員で時習館校歌・応援歌を声高らかに斉唱。いつも胸にジンと来るものがあるのは皆さん、同じでしょう。また、豊中卒業ならびに在籍した先輩方7名がステージに上がり、豊中校歌を力強く歌い上げてくれました。

最後は、若手の飛松孝司先生(時習 30)、熊本和正氏(時習 31)、近田 昇氏(時習 35)の3名による手を繋いで万歳三唱で締めくくりました。

○ご当地のおみやげでエール交換

今年も、佐藤元彦ヤマサちくわ(糊)会長(時習1)が、手ずから当日朝運んで頂いたちくわと、金とびそうめんのお土産を手に会場を後にしました。

来賓の方々へのお土産を任された私は大阪らしさを醸し出そうと考え、北浜の有名なケーキ屋、五感の「ええもん＝丹波の黒豆入りケーキ」と551蓬莱の「豚まんとしゅうまい」を選びました。豚まんにはちょっと苦労しました。出来立てを会場へ持ち込む必要がありますが、ちょっと匂いがするのも場所柄、難があります。そこで、わが女房どのに頼み、京橋の551の店で購入、タクシーで太閤園玄関へ。一般のお客様に迷惑が掛からないように、従業員用エレベーター経由で会場へ。予定通り午後1時過ぎに届けられました。551の袋を見て、飛松先生が「あつ、これ買って帰ろうと思った」と喜んでくださり、女房の協力と太閤園の配慮に改めて感謝した次第です。

2次会の茶話会が2階のオーキッドテラスに場所を移して催され、4テーブルに 40 余名が一時間ほどの談笑を楽しみました。

「また、来年、神戸で会いましょう！」と名残惜しそうに散会しました。



“元気な神戸の街へ” 第46回 神戸支部総会に寄せて

関西支部 副支部長 大石 由紀子（時習 10）



平成 24 年度、第 46 回時習館同窓会関西支部総会は「KOBE de 時習館」の神戸会場で開催します。

「がんばろう！日本 神戸から」を合い言葉に阪神・淡路大震災復興 17 年目の元気な神戸を、同窓生の皆さんに見ていただきたいと考えています。

神戸に在住する同窓生が中心になり、鋭意、準備を進めて参りました。

会場は豊かな自然に囲まれた山上リゾート六甲山ホテルです。送迎にはシャトルバスを用意しました。車中から広がる雄大な眺望は私たちの目を楽しませてくれるはずです。

記念講演は「街づくり、神戸は今」を兵庫県淡路県民局県民生活室長の鬼本英太郎氏（時習 27）と神戸医師会理事・整形外科医の松井誠一郎氏（時習 27）によるリレー講演です。

○六甲山上でジャズ演奏も

松井先生はヴァイオリン奏者としても活躍されていますので、神戸がジャズ発祥の地であることに因んで、ジャズバンドを組織していただき、ジャズ演奏をお願いしています。

ジャズバンドによるスタンダードジャズ演奏から、ドラム独奏やヴァイオリンとの競演、さらには、生ジャズバンドをバックにした眼科医・藤巻篤子氏（時習 14）の独唱など多彩な企画を考えているとのこと、ご期待下さい。

メンバーの中には豊橋から当同窓会の副本部長でもある福井英輔氏（時習 27）の親戚である福井敬氏（時習 29）がサックスを担当します。太田房江元大阪府知事（時習 20）にピアノを担当していただくようお願いいたしましたが、指を骨折されて

いて、残念ですが叶いませんでした。（総会へは是非出席したいとのご返事をいただいています）

目配り、気配り、心配りを胸に秘めて、下準備を重ねてまいりました。なんとか、皆さんに喜んでいただける総会・懇親会になればと思っています。

「時習館で学んだ尊き」、この「時習の絆」をさらに太くして手を携え、活発な同窓生の交流の場が築ければと願っております。

来年は母校同窓会 120 周年の記念すべき年です。

世代を貫いて続いてほしい。その意味でも、若い世代の方々がどんどん参加され、新しい息吹を注入していただければありがたいです。

一人でも多くの方々に、同窓会の素晴らしさ、楽しさを体験していただくよう、皆さんお誘いの上ご来場していただければと思います。

今後とも皆さんの温かいご支援をよろしく願いいたします。

是非、6 月に風光明媚な六甲山の山頂でお会いいたしましょう。

「ホイ！ きておくれん！！」



総会開催会場
六甲山ホテル 本館 1 階「あじさい」の間

特別寄稿

母校本部よりの便り



特別寄稿 時習館だより



練習信じ 勝負の中で燃焼

愛知大会 4回戦で中京大中京下す

時習館高校教諭（野球部監督） 林 哲也（時習43）



快挙を伝える各新聞



平成23年7月に開催されました第93回全国高等学校野球選手権愛知大会におきまして、本校野球部の生徒たちが、愛知大会3連覇をもくろむ中京大中京を相手に激闘を繰り広げました。監督であります私にとりまして生涯に残る一戦であり、母校に貢献できたという感慨は絶大なるものでした。ここにおきまして、僭越ではありますが、中京大中京戦に至るまでの軌跡を自ら振り返ってみたいと思います。

○「最短時間で最大効率」

皆様ご存知でありますように、本校は進学校であり、生徒は勉学を主体とした学校生活を送ることになります。当然部活動の時間は少なく、平日でありますと夏季時間では2時間、冬季時間では1時間半の練習時間しかとれません。そのため、「最短時間で最大効率」というスローガンを掲げ、平日は班別の個人練習に充て、土日で練習試合やチーム練習を行うというスタイルに切り替えました。また、練習試合では県内外の強豪校に胸を借り、強豪校から高いレベルのプレーを学ぶだけでなく、どうすれば本校のような力のないチームが、強豪校に対して一矢報いることができるのかを考

え、「対強豪校」対策をしました。

そうした中で浮かび上がってきたのが、様々な種類の投手を作り、打者によって不得手な投手を当てていく継投策です。強豪校はいわゆる速球派の「好投手」を打ち崩す練習をしています。変則投手や遅球投手の対策はあまりしておりません。こうした奇襲的な投手起用で6月の練習試合では好成績をあげることができ、ある程度の手応えをもって7月の愛知大会本番を迎えたのです。

○2, 3回戦で8回コールド勝ち

そして7月10日（日）、第93回全国高等学校野球選手権愛知大会1回戦が始まりました。1学期期末考査後すぐの試合であったため、調子が上がらず試合序盤から大変苦しい戦いになってしまいました。初回に1点先制したものの、先発前田が不調で3失点し小坂井高校を追う展開となりました。しかし中盤に相手投手をとらえ5対3とリードし、最終回もランナーを出しながらも5対4で逃げ切ることができました。

次の2回戦は1週間後の7月18日（月）となりました。体力を消耗する暑い夏の気候や選手たちの体調を考えると、コンディションを整えるための調整練習期間としたいものですが、4回戦の中京大中京戦でベストコンディションに持つため、この週をあえて強化期間とし、走り込みや振り込みを選手たちに課しました。そうしますと一時的にパフォーマンスは落ちるものの、疲れが抜けてくるおよそ2週間後にベストの状態に仕上がってくることを期待しておりました。そして2回戦の半田農業戦は、前半やはり疲れからか体が重そうで快打が出ず点が入りませんでした。8回に6点を奪い8回コールドで勝利することができました。

3回戦は7月22日(金)で相手は豊橋商業でした。時習館打線が火を噴き、4番筒井のスリーランホームランもあり、8回コールド10対1で勝利することができました。

○継投策で中京大中京を翻弄

いよいよ4回戦の中京大中京戦です。試合前日に選手たちに話したことは、「相手のユニフォームを見て戦うのではなく、自分たちが練習でやってきたことを信じ、一瞬一瞬の勝負の中で力を出し尽くそう」ということです。相手を見て自分を変えるのではなく、自分に軸を置いて勝負を展開すれば、自ずと結果はついてくるものです。また、普段から生徒に話していることですが、剣豪宮本武蔵の「我事において後悔せず」という言葉があります。勝負において「迷い」は禁物です。「迷い」が一瞬の判断や行動を鈍らせます。「あの時にこうしておけばよかったのに…」と後悔しないように、普段から心を決めて物事にあたるのが大切だと思うのです。

そして7月25日(月)、試合開始予定は午後12時30分でしたが、雨のため試合時間が大幅に伸び、人工芝の瑞穂球場のナイター照明が点灯する中、開始しました。本校の投手は遅球でくせ球をもつ右腕福田を先発させ、その後は打者の特徴を見て投手を使っていこうと思っていました。相手投手の浅野君の制球と球のキレは素晴らしく付け入るすきがないように思われましたが、2点を取られた後の4回、4番筒井、6番金屋のタイムリーで2点を奪い同点としました。



チームに活気を呼ぶ初得点をたたき出した筒井選手の適時打
(写真＝東海日日新聞社より)

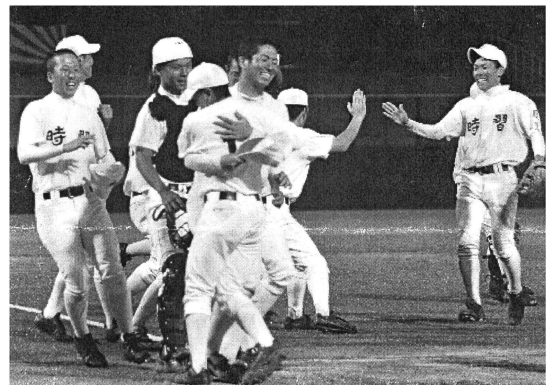
先発福田は持ち前の緩急を使ったピッチングで飛球アウトをよくとりましたが、疲れからか制球が悪く四球で常に走者を背負う苦しい展開でした。

どこかで継投しなければもたないと思っていた5回、先頭打者を四球で歩かせたところで左の変則投手である前田に替えました。



力投の前田投手
緩急を駆使し、頭脳的な投球で、強豪を翻弄
(写真＝中日新聞社より)

狙いは彼の緩急と左特有の牽制で走者をくぎ付けにすることでした。前田は安打を許しながらも粘りに粘り、また8回に主将高崎のサードゴロでまさかの相手エラーを誘い、1点リードすることができました。このままで終わるはずがないと思いい、延長のことを考え次の投手も準備しておりましたが、9回も三振や飛球などで無事に勝利することができました。その瞬間の生徒たちのはじける笑顔、球場のどよめきは今でも忘れることができません。



勝利の一瞬 歓喜の輪
(写真＝朝日新聞社より)

○進学校も「甲子園」を目指す

進学校といえども、私たち顧問、生徒一同は高校球児の夢であります「甲子園」出場へ向けてさらに精進していく所存であります。当然簡単に行けるものではありませんし、進学校としていろいろな制約がありますが、言い訳をせず、希望を捨てず、頑張っていきたいと思います。今後とも、部活動にご支援ご協力いただけますようお願い申し上げます。

特別寄稿



時習館高校創立 120 周年記念事業
～式典は平成 25 年 10 月 27 日開催決定～



時習館同窓会本部 飛松 孝司 (時習 30)

関西支部の皆様へ、来年迎える創立 120 周年記念事業「準備委員会」の中間報告を致します。委員には時 32 回から時 40 回の若手を中心に選出しました。記念式典は平成 25 年 10 月 27 日 (日) に母校体育館で挙行。開催時間は今後実行委員会で検討されます。ご協力をお願いします。

○3 年前から準備開始、10 回の会合を開く

平成 20 年 12 月以降、大沢会長を委員長とする 4 回の「同窓会の当面の諸問題を検討する小委員会」、続いて「創立 120 周年記念事業『打ち合わせ会』」が 3 回開催され、平成 23 年 5 月 10 日に役員会および本部総会で「準備委員会」の設置が承認されました。その後「準備委員会」は 3 回の会合を経て、平成 24 年 2 月 2 日の役員会で、120 周年関連の報告をし、承認を受けました。また、同日、役員改選が行われ、新役員のもとで、平成 24 年 5 月 13 日の理事会および本部総会に「実行委員会」の設置を提案する手はずになっています。各会合の開催日は次の表に示すとおりです。

同窓会の当面の諸問題を 検討する小委員会開催日	
第 1 回	平成 20 年 12 月 2 日
第 2 回	平成 21 年 2 月 2 日
第 3 回	平成 21 年 8 月 20 日
第 4 回	平成 21 年 11 月 20 日

創立 120 周年記念事業 「打ち合わせ会」開催日		創立 120 周年記念事業 「準備委員会」開催日	
第 1 回	平成 22 年 11 月 8 日	第 1 回	平成 23 年 6 月 29 日
第 2 回	平成 23 年 1 月 26 日	第 2 回	平成 23 年 10 月 6 日
第 3 回	平成 23 年 2 月 28 日	第 3 回	平成 24 年 1 月 30 日

○真剣な討議の末、概案が答申される

各委員会では、「事業部」「式典部」「総務部」の 3 部会を設置し、若手会員による真剣な討議のもとで具体的なアイデアが出され、検討すべき課題が答申されました。それぞれの部会で実行の可否および経費概算を含めて検討したのですが、ここではその内容の一部を紹介します。

○今後は「実行委員会」に引き継がれる

各部会で討議された項目は次の表に示すとおりです。これらは平成 24 年度 5 月の総会・理事会で立ち上げられる「実行委員会」に引き継がれ、実行可否、手順、分担などが決められます。また、コンセプトも、その実行委員会で検討されます。

事業部

- 時習館文化財の保護 (一部修理・図録化) → 実行委員会の直轄事業とする (主として幹事会の一部および常任理事の一部を任命)
- ポセイドン像の塗り直し (朝倉幹事より提案があり本年 7 月実施)
- 豊中正門の保護 (安全面への配慮が必要であり本年 7 月実施)
- 新しい事業案の検討 (今回担当する若い世代の清新な企画)
 - ・この検討で、式典後にフォーラム開催 (各世代代表による講演会を行う) を決める。

式典部

- 式典内容の検討 (ステージ上のレイアウトの検討も含む)
- 式典の中で当初予定していた各世代の代表の「世代を語る」は実施しない予定。
- 総司会の指名 (若い候補に打診する)
- 講演会の支援 (120 周年に相応しい講演会を生徒向けに実施する)
 - ・同窓会長ほか P T A 会長、実行委員はこの講演会に出席する。

総務部

- 同窓会名簿の今後発刊の可否および方向性
- 募金実施の是非 (「打ち合わせ会」では非実施の方向)
- 祝賀会実施の是非 (「打ち合わせ会」では検討中)
- 交流会実施の是非 (「打ち合わせ会」では実施で検討)
- 記念誌 (記録) の発行 (式典終了後に発行)
- 広報活動 (趣意書発送含む) 及び各地方支部・報道機関への情報提供
- 『時習館史』のそれ以降の編集への取りかかり (検討中)

以上が、120 周年記念事業準備委員会の「中間報告」です。今後「実行委員会」で継続審議され、120 周年に相応しい記念事業が作り上げられます。ご期待下さい。また、各支部への具体的なお願いも検討されます。その際は盛り上げを含めご協力をお願いします。

特集記事

がんばろう！日本 神戸から



特集記事



震災に揺れたあのとき ～被災体験 後世に～

花井 俊作（時習 17）



○東日本大震災の発生

2011年3月11日、西宮鳴尾のデイ・サービスで勤務していた。利用者さんへの連絡帳にパソコンで入力していた時、急にめまいがしたように感じた。しかし体調は別段悪いこともなかったので「地震かな」と思って、スタッフに「今、揺れなかったか？」と聞いた。「いや」との返事。一瞬、「やばい、どこか体の調子がくるってきた」と冷や汗がじわり。自分の体の調子のことを思い返しなが想像は悪い方へ行ってしまふ。しばらくしておやつの時間になった。

テレビのスイッチを入れたところ、平地をなめるように進む津波の映像。東北で起きた地震の揺れがここまで波及したのか、とびっくり。かなり大きな地震だったんだ、と思った。

○思い起こした阪神・淡路大震災

テレビの映像を見ても、まだこのときはとてつもない津波が襲っているとは思わなかった。大地震が起きたことで17年前の阪神・淡路大震災を思い出していた。

1995年（平成7年）このとき、成人の日はまだ1月15日であり、世間一般は土、日、月の3連休のところが多かった。金曜日の退社時、キーボードをデスクトップのディスプレイ上に置いたままの社員が目立った。上司と二人で「地震でも来たら落ちて壊れるぞ」と話しながら7、8台のキーボードを下へおろして帰った。まさか本当に地震が来るとは思いもよらなかった。

忘れもしないあの1月17日、まだ暗いうちに「そろそろ犬の散歩に行こう、今何時ごろかな」と思っていた。突然、削岩機で下から突き上げられるようなドドドドッと言う音と揺れ。一瞬、浜の石油タンクが大爆発を起こしたと思った。その直後、思い切り家

が揺れ出して、ギシギシ音もする。家がつぶれる、その下敷きになる、死ぬかもしれないという恐怖が襲ってきた。やがて揺れが収まり、近所の人が暗い中、「今のはなんだった」と言いながら出てきた。妻や子どもたちの無事を確認して2階の寝室から階下へ降りた。

ダイニングに置いてあったガラス戸棚が倒れ、ガラスやビンが割れ、大事にとってあった洋酒は無残にも全部こぼれてしまっていた。

○愛犬にも深い心の傷

雨戸をあけた途端、足元をシュッと飛び出していくものがあった。愛犬だった。前々日ぐらいから冷え込んでいたので夜だけ玄関に入れていたのだが、あまりの揺れに犬のことは完全に頭から消えていた。犬は全く吼えず、恐怖心に恐れおののいていたのだろう。

明るくなってから近くに一人で住む義母のところへ行く。家は大きいし、我が家が倒れなかったから大丈夫と思っていた。だが、一階は平行四辺形のような状態。義母は無事で「急に隙間風が吹き込んできて、どうしたのか」と思ったとのことだった。

○まるでゴーストタウン

会社は家から浜の方へ6キロほど離れた埋立地。車で行ったが、停電で途中、信号はすべて消えており、まるでゴーストタウン。車は交差点では譲り合って走行しており、クラクションは一切鳴らなかった。会社までの間、パジャマの上に毛布を羽織って出てきていた人をあちこちで見かけた。あるマンションでは非常階段が1mほどずれているのに、その時は気づかなかった。後で聞いたが、そのマンションは2階がつぶれて亡くなった方もいたとのこと。

浜に近づくと阪神高速道路は波を打っており、橋げたのコンクリートがはがれて鉄筋がむき出しになって曲がっている。埋立地に通じる橋は盛り上がり、

手前が沈下したのか、そこから先は車を降りて会社に向かう。橋を渡った先は液状化で泥の海。初めて見る悲惨な現場。道路は洗濯板のように波打っており、側溝の網状の鉄のふたもひん曲がっていた。

○きちんと戻ってきた道具

何人かはまだ会社に来て職場を点検していた。私も自分の席のある部屋に入って驚いた。自分が座っていたところは机も棚も集中しており、特に後ろの棚がいくつも落ちていた。

以前、会社に勤めていた方の家がつぶれているとの情報で、何人かがシールなど必要と思われる道具を手に出向く方向に歩いていた。残念ながらその方は亡くなられてしまった。救助活動はそこかしこで行われており、道具を持ってない方もおられ、持参した道具はそのままおのりの方にも使ってもらった。このような非常時、道具は行きっ放しと思っていたが、きちんと戻ってきた。正直感心した。

○今でも後悔

当日、経験したことで今でも気になってしまうことがある。用事を済ませて早く会社に戻ろうと山手幹線を走行中、男の人に「車に乗せてほしい」と頼まれた。その人は寒い日なのに手にコートを持ってワイシャツ姿、しかも汗びっしょり。その方は地震直後から川西の住まいを出て、一人暮らしの母親がいる六甲道へ、走ったり、途中とぎれとぎれ車に乗せてもらい、また走ったりと。この方に出会ったのは10時ぐらい、だとすると、地震発生から4時間かけ必死で駆けていたことになる。家々がぺしゃんこになっているので気が気ではなかったと思う。

自分も早く会社に帰らないといけないという思いもあって住吉川まで送っていった。山手幹線沿いの家々は建っていたが一筋北側の通り沿いは軒並みつぶれていたのが後でわかった。なぜ六甲道まで送ってあげなかったのか、今でも悔やまれる。

○武庫川を越えたら別世界

地震後1カ月間は家と浜の会社の往復。明るくなって作業を始め、暗くなったら帰るそんな繰り返し。暖

房もなく、寒い中、防寒具を着込んで皆が作業をしてくれた。家の方が片付いた人が徐々に出てきてくれて、安否も次第にはっきりしてきた。幸い社員は全員無事であった。

震災後1カ月経って、大学に入る息子の服や靴を買いに初めて大阪に出た。JRは住吉が一時的にターミナルとなって発着。大阪に向かう電車の中から外を見ていると武庫川を境にしてブルーシートが急に少なくなる。大阪に着いたらまるで別世界。阪急のエスカレーターに大勢の人が乗っているのを見て、「こんな時に地震が起きたら」と恐怖心がわいてきた。エスカレーターに乗っている間も落ち着かなかった。当時は「地震の時はどうでした」とよく聞かれ、話しているうちに途中から涙が出て続かなくなってしまう。

17年前の震災のこと、書き出すとあとからあとから当時のことが思い出されて自分でも驚くほどで、とても書き尽くせない。

○隔靴搔痒

今回の東日本大震災、地震だけでなく、津波、原発といくつも打撃を受けている。ニュースでは津波、原発が大きく取り上げられているが、内陸にも地震で大きな被害に遭われた方が大勢いることだろう。阪神・淡路大震災の時も、ニュースでは長田区の火災だけが大きめに取り上げられていて、なんか報道に違和感を持った。

神戸も今では震災の跡地に家々が立ち並び、ところどころ空地のままのところもあるが、以前の街並みを取り戻していると思う。

阪神・淡路大震災の時は全国の方から支援を、いただいた。今度は東北の方々への支援を、と思いながらもできることは義援金ぐらい、歯がゆい限りだ。

世界で発生する地震の1割は日本に集中しているという。震災はいつ、どこで降りかかって来てもおかしくない。被災を「他人ごと」とは思えない。日本人全員が自分の課題として地震に立ち向かい、苦い体験を後世に語り継いでいきたい、との思いで、この一文を書いた。

特集記事



神戸誕生物語

熊谷 信哉 (時習 18)



神戸へようこそ！ 今年にはNHKの大河ドラマで「平清盛」が取り上げられ、古い時代の神戸の一面に脚光が当たっているが、この26号では明治以降の神戸に焦点を絞り、ご案内したい。開港から140年余。神戸が国内外の情勢の中で、どういう役割を果たし、どう歩んで来たか。これに答えてくれるぴったりのタネ本を見つけた。芦屋大学客員教授・楠本利夫氏の力作『増補 国際都市神戸の系譜』(公人の友社)や、彼の一連の著作である。ご本人の了解を得て“おいしい”ところを趣旨を変えずに要約・抜き書きし、ご紹介しよう。

○街区ごとに違う街路灯

本題に入る前に、近代の神戸の歴史に関わりの深い「元町」を訪れてみよう。JR元町駅を降りて浜側(神戸では、こういう言い方をする)へ5分足らず。神戸一の繁華街「センター街」にひけをとらない「元町」の東入り口が目の前に見えてくる。

1番街(1、2丁目)から西入り口の6丁目まで約1・2キロ。街角ウオッチングを兼ねて「元ブラ」と決め込んでみよう。

ここで注目して欲しいのが「街区(△丁目)ごとに形が違う街路灯」だ。大半が、かつて元町を盛り立てたスズラン灯を模したデザインが中心だが、地域ごとに変化をつけ



ている。元町4丁目は街路灯の下に船の舵を思わせる丸い形、5丁目はパールのブローチのような形。6丁目は「洋数字の6」を表現している＝写真参照。

街区ごとに街路灯のデザインが変わることを楽しい、と感じるか、商店街としての統一が取れていない、と受け取るか？ さて、元ブラを体験したあなたは、どちら派？

街路灯に限らず元町は魅力いっぱいの街。筆者が初めて神戸にやってきた昭和40年代には、神戸に駐留していた米軍の払い下げ物資を扱う専門店や、個性あふれる古書店が軒を並べ、飽きずに通ったことを懐かしく思い起こす。

神戸が約140年前に開港した当時の母体となった「神戸村」「二つ茶屋村」「走水(はしうど)村」の名前を冠した神社や商店を探すのも元ブラの楽しみの一つ。いずれも山側でなく浜側にあるので



街区ごとに違う街路灯のデザイン 元町のみどころの一つだ

神戸開港の母体となった「神戸村」「二つ茶屋村」の名前を冠した商店

チェックしてみよう＝写真参照。



「走水神社」もあります

○全ては 140 年前の開港から

「開港時、人口わずか 3600 人で、西国街道に面した海沿いの神戸(東から神戸村、二つ茶屋村、走水村)が 150 万人超の人口を擁する国際都市に成長したのは、ひとえに神戸が開港したためである。維新政府は外交上は不平等条約撤廃、内政上は治世安定、殖産興業という 3 つの政策課題に直面していた。新たに開港した神戸はこれらの課題解決のために極めて重要な西日本の拠点だった。

外国側が(神戸地区の西に隣接する)兵庫地区の開港にこだわったのは、横浜と長崎の貿易を連結するために、瀬戸内海の兵庫開港と、これに関連する大坂開市を重要視したからである」(前掲書 3 頁～37 頁)

○なぜ開港場が兵庫ではなく神戸となったのか？

「古くから兵庫津として栄えていた兵庫地区は、幕藩体制の中で大坂経済を補完する役割を担っていた。幕末には既に人口 2 万人を擁する商業、交易の中心で殷賑を極めていた。このような街を開港すれば、いつ日本人と外国人の衝突が起こるかも知れない」(前掲書 38 頁)

1859 年 7 月 1 日(安政 6 年 6 月 2 日)の神奈川(横浜)開港以来、生麦事件など、開国に反対する武士の外国人襲撃事件が相次いで発生。神戸開港から 1 カ月しかたない 1868 年 2 月 4 日(慶応 4 年 1 月 11 日)、維新政府が憂慮していたことが現実となり、大きな国際問題になった。有名な「神

戸事件」である。

現在の丸神戸店近くにある三宮神社前で備前藩兵と英国、フランス水兵との接触から武力衝突となり、外国軍は居留地を占拠、停泊中の船舶を拿捕した。この件は日本側が全面陳謝し、事件からわずか 5 日後に、責任者として瀧善三郎が詰め腹を切らされた。兵庫の永福寺で外国人立ち会いのもと、切腹が断行された。日本の「腹切り」をぜひ見てみたい、という外国勢力に政府が押し切られた格好となった。

「王政復古の号令の後、維新政府は諸外国への政権交代の通告の機会を模索していた。たまたま起きた神戸事件を利用して、当時、神戸に滞在していた欧米 6 カ国の駐日外交団と会見し、外交関係樹立に成功した。神戸が新政府の最初の外交の極めて重要な舞台となったのである」(前掲書 19 頁～54 頁)

「兵庫地区が抱える事情とは対照的に、湊川を挟んで東にあった神戸村には、海に近いところに広大な畑地、砂浜が広がっており、岸の近くに大水深の港を建設できる海岸が広がっていた。神戸は開港場となる条件がそろっていた。外国側もこのことを 1865 年(慶応元年)の時点ですでに知っていた。神戸は優れた投錨地となっている小さな湾に面しており、天然の良港だったわけだ」(前掲書 39 頁)

○神戸外国人居留地

有名ブランド店が多数出店し、国内でも有数なおしゃれな街として定着している神戸の外国人居留地跡。阪神・淡路大震災を乗り越え、多くの神戸っ子や観光客を引きつけている。

「国際都市神戸の原風景ともいえる外国人居留地。神戸開港の翌年にスエズ運河が開通し、欧州と極東の距離が大幅に短縮された結果、ひと・もの・かねの交流が盛んになり、神戸は横浜とともに、わが国の世界への窓口となった。神戸外国人居留地は、対外貿易の拠点として国際都市神戸発展の原動力となってきたばかりでなく、神戸に住み着いた多くの外国人が西欧の文化を根付かせ、山と海という自然環境に恵まれた神戸に国際的な雰囲気吹き込み、神戸の都市魅力を形成してき

た」(楠本教授「私の神戸外国人居留案内」開講趣旨より)

「神戸村の浜辺に設置されることとなった神戸外国人居留地は、東は生田川、西は鯉川、北は西国街道、南は海岸に挟まれた区域で面積は25万5869平方メートルと決められた。居留地の都市計画は、南北八条、東西六条の通りが敷かれ、126区画に分けられた整然とした市街地が生まれた。

神戸の居留地は、その都市計画が見事であったため、『東洋のモデル居留地』と言われるほどだった」(前掲書114頁～131頁)

○神戸又新日報

「明治中期から昭和10年代半ばまでの兵庫県や神戸の地域研究に欠かすことが出来ない第一級資料として日刊紙『神戸又新(ゆうしん)日報』がある。新聞の題号は『日日新 又日新』(ひびあらたにして、またひにあらたなり)からきている。日日旧習を打破して、自ら新たに作る、という、進歩と発展を表現したものだった」(前掲書166頁～170頁)

○明治から交流支えた東遊園地

旧外国人居留地の東に接したことから現在の名前になった「東遊園地」(神戸市中央区)。11年5月、文部科学省から「日本人と居留外国人との交流の契機となった上、現在も市民生活で明確な役割を果たし、造園文化の発展に寄与した」と評価され、国の「登録記念物」に指定された。大都市のど真ん中にあるが、四季の移ろいを感じられる公園で、阪神・淡路大震災後は毎年1月17日に「阪神・淡路大震災1・17のつどい」が催されるなど、神戸市民に親しまれており、「登録記念物」指定はうれしいニュースである。

東遊園地は神戸市が管理する国有地で、広さは約1万9300平方メートル。1875年(明治8年)に「内外人遊園地」として造成され、外国人だけでなく、日本人も使用できた。

「1877年(明治10年)に『居留地劇場』が東遊園地内に移築された。この劇場は、横浜外国人居留地の『ゲーテ座』、長崎外国人居留地の『パブ

リックホール』とともに、明治以降の日本劇場史に残る重要施設である。横浜と長崎にきた外国の旅芸人が、この劇場完成後は、ほとんど神戸に立ち寄るようになった。ただ、当時の『神戸又新日報』に掲載された読者からの投書では芸のレベルの低さと料金の高さを指摘、外国人と日本人の所得格差を嘆いている」(前掲書134頁～138頁)

東遊園地は明治以降、さまざまな人間ドラマの舞台となった。神戸の歴史を体感するため、修学旅行などでも、ぜひ立ち寄って欲しい。

○神戸と兵庫の大きな違い

「日刊紙『神戸又新日報』が1886年(明治19年)9月10日から1カ月にわたって掲載した論説記事『神戸将来の事業』は開港場・神戸を『文明の都』にふさわしい都市として作り上げるための熱気あふれる15項目にわたる提案だ。

この中で『兵庫と神戸の一体化』の必要性が強調されている。兵庫と神戸という隣接する2つの町が、その中間にあった坂本村を加えて、1879年(明治12年)1月、新たに一つの行政単位になったが、数年たっても、なかなか融和できなかった。双方がもともと全く独立した地域社会だったため、古くから栄えていた兵庫と、新興神戸は反目し合っていた。

住民の気風や商売に対する考え方も正反対だった。例を挙げると神戸では明治初期から写真店や牛肉屋が開業したが、兵庫の人たちは『写真を撮られたら命が縮む』と考えており、牛肉屋も皆無だった。神戸では白い歯をした婦人を見かけたが、兵庫の婦人は依然として歯を黒く染め、眉毛を剃っていた…などだ。

この対立を助長したのが兵庫と神戸の間を南北に流れる湊川だった。川床が7メートルもある天井川で、2つの地区の間に屏風のように立ちはだかっていた。

交通障害と氾濫をもたらす湊川の流路変更(付け替え)工事は1897年(明治30年)に至り、地元資本で設立された『湊川改修株式会社』が実施した。河川敷の跡地に同社経営で生み出された歓楽地が『新開地』である」(前掲書170頁～191頁)

○ハーバーランドに明治天皇御用邸があった！

「皇居、京都御所、浜離宮、桂離宮、修学院離宮—明治以降の宮殿と言え、こうした名前が思い浮かぶはず。神戸にあったのは『武庫離宮』（現在の須磨離宮公園）だが、ハーバーランドの一角に『明治天皇御用邸』（以下・弁天浜御用邸）があったという事実は最近までほとんど知られていなかった。

前述したように、明治政府にとって神戸は西日本経営上、重要な拠点だった。維新後、鉄道網が整備されるまで、東京から神戸への交通手段は船便に頼っていた。弁天浜は大型船の接岸にも適しており、御用邸を設置するには格好の立地だったと言えよう。

弁天浜御用邸は宮内省が1886年（明治19年）に、勤皇の商人・専崎弥五平の屋敷を買い取って開設した。

明治天皇は神戸への24回の行幸のうち、この御用邸に9回立ち寄られている。そのうち2回は、あの天津事件の事後処理に使われた。言うまでもなく天津事件は来日中のロシア帝国ニコライ皇太子が天津で警備の警察官に切りつけられ負傷、新興国日本を震撼させた事件である。

私（楠本教授）が2002年（平成14年）1月に、この弁天浜御用邸のことを『神戸外国人居留地研究会年報』に発表して以来、関係資料が徐々に発掘されつつある。

御用邸は開設後、12年余にわたって機能した」（前掲書216頁～258頁）

○おつな雰囲気「乙仲通り」

話を再び元町周辺に戻そう。元町のすぐ南を走る栄町通りと国道2号の間が、今や若者に人気のスポット「乙仲（おつなか）通り」。戦前からある古色蒼然としたビル群を活用、約10年前からアンティークショップやヘヤ・サロンを誘致、独自の街づくりを目指している。

エレベーターがなく、急な階段だけ、というビルも多いが、若いカップルらが押し寄せ、活気にあふれた空間となっている。



超レトロなビルの内部は想像もつかないようなファッションナブルな空間だ。アンティークな時計が似合う

乙仲通りには、かつて海運貨物取り扱い業者が軒を連ねてにぎわっていた。1939年（昭和14年）、戦時体制に備える政府によって、これらの業者が「乙種海運仲立業」にまとめられた。これが通りの名の由来である。

従業員が数人しか見当たらず、何をしているかよく分からないオフィスと見たのは、実は世界中で大型船を動かしている会社の本社、というビックリする話もある。神戸では、ぜひチェックしておきたい空間だ。

○ジャズ発祥の地

いまでこそ全国各地でジャズライブが活発に行われるようになったが、神戸は日本で初めてジャズバンドが演奏したため、ジャズ発祥の地として知られる。「神戸ジャズCITY」や、毎年8月に開催される小、中、高校生を対象とした「神戸ステューデント・ジャズ・フェスティバル」、10月に北野の異人館街周辺で繰り広げられる「神戸ジャズ・ストリート」は、それぞれ長い歴史を誇り、神戸っ子に親しまれている。映画「スウィングガールズ」のモデルになった県立高砂高校もフェスティバル出場の常連校だ。

神戸開港以来、外国の文化がどんどん流れ込み、国際色豊かな雰囲気の中で市民の身近には常にジャズが。これが京阪神モダニズムという独特な文化形成にも大きく寄与した。

神戸ジャズCITY委員会広報委員長の池田寔彦（これひこ）さんは「まだ海外との交流手段に船が主流だった大正時代、主にヨーロッパのジャ

ズは神戸へ上陸、米国のジャズは東京、横浜に入っていた。

ところが1923年（大正12年）9月1日に起きた関東大震災で関東流入ルートは寸断され、米国の文化も神戸へ流れるようになった。ミナト神戸にはヨーロッパ、米国双方のジャズが同時に流れ込む時代が現在に至るまで続いている。

そして第2次世界大戦が終わり、多くの米軍兵士が神戸に駐留。この中に多数のプロのジャズ・

ミュージシャンも含まれ、神戸のジャズは第2の興隆期を迎え、現在の基礎をつくった」と、神戸のジャズの歴史を解説している。

○おしゃれな街 神戸が待ってます

明治維新から140年余の時空を経て、おしゃれな街になった神戸。この『時習館かんさい』26号を片手に神戸の休日を楽しんでみませんか？



神戸関連年表

1180年（治承4年）平清盛、福原京に遷都（中略）

1853年7月8日（嘉永6年6月3日）東インド艦隊司令長官ペリー、軍艦4隻を率いて浦賀に来航、開港を迫る

1867年5月16日（慶応3年4月13日）幕府、各国との協議で兵庫（神戸）居留地は「神戸村の生田川以西、鯉川以東」と決定

1867年9月13日（慶応3年8月16日）幕府、神戸村庄屋の請負で居留地と運上所（のちの神戸税関）建設着手

1868年1月1日（慶応3年12月7日）神戸（条約上は兵庫）開港。英国、米国が神戸領事館開設。大坂開市

1868年2月4日（慶応4年1月11日）神戸事件発生

1868年10月23日（慶応4年9月8日）元号を「慶応」から「明治」に改元。この日が明治元年9月8日に

1868年12月14日（明治元年11月1日）神戸村、二つ茶屋村、走水村の3村を合併して「神戸町」とする

1873年1月1日（明治5年12月3日）太陽暦（グレゴリオ暦）採用。明治5年12月3日を明治6年1月1日とする。以後、西暦と和暦の月日は一致

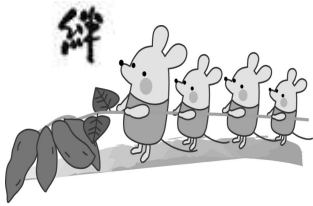
1879年（明治12年）**1月8日** 神戸区、兵庫区、坂本村を合併して「神戸区」とする

1886年（明治19年）**9月4日** 弁天浜明治天皇御用邸開設

1891年（明治24年）**5月11日** 大津事件発生

（前掲書290頁以降の「神戸歴史年表」から抜粋）

特集記事



**東日本大震災被災地を訪れて
—「現場」を知る、「現場」を学ぶ—**



鬼本 英太郎 (時習 27)
(兵庫県淡路県民局副局長 元県復興推進課長)

○淡路島から被災地へ

昨年の暮れ、淡路島の人たちと、東日本大震災の被災地、宮城県七ヶ浜町を訪問し、お餅をついて、414世帯ある仮設住宅にお配りしました。

昨春から同町の支援を続ける住民グループ「復興支援ネットワーク淡路島」が、閉じこもりがちな仮設住宅にお住まい方が互いに交流し、よい年始を迎えられるよう、町職員をはじめ現地の方々と計画。阪神・淡路大震災の被災地、淡路島から神戸を経由するバスを運行(往復車中泊)しました。淡路地域のこころ豊かな500人委員をはじめ、子ども連れから78歳とご高齢の方まで24人のボランティアが参加しました。餅米は、あんこや、きな粉とともに町内の米屋さんで購入し、障害者就労支援施設「みお七ヶ浜」に事前の準備をお願いしました。そして現地の生涯学習センターに電動餅つき器23台、きねと臼2組を持ち込み、地元婦人会の方々に中心になってもらい、12月23、24日の2日間にわたり、360キロのお米の炊き上げからお餅づくりまでをしました。



屋外でのお餅つき

きました。

この活動に参加した東京の友人は自らのブログで、「婦人会の方々もそれぞれに被災されている。それでも突き抜けた明るさ。“なーんもなくなっさ”“それでも元気だよ、私たち”“でもねー、夜になるとやっぱりだめだねえ”という一言一言が身につまされた。支援のあるべき形を、いろいろ考えさせられた2日間だった」と語っていました。



地元婦人会の方がフル稼働

○“なーんもなくなっさ” “それでも元気だよ”

そして、同センターに来てくれた方に、のし餅やあんこ餅をお配りしたほか、町の課長さんたちの先導で、センターから遠い仮設住宅は1軒ずつ回り、手渡して



お餅ができあがりしました

ネットワーク代表のKさんは、これまでの取組を「外部からの支援は、手数はかかるかもしれないが、事前の準備から現地の方々に参画してもらい、一緒に仕事

する。そして、地域の人々の自立を支援する。また、できるだけ現地でお金を使うことで、地元でお金がまわるようにする。これを大切にしたい」と話されていました。そして私は、このプロジェクトは、今回の震災以降、淡路島のみなさんが、七ヶ浜の方々とつながってきたからこそ、できたと痛感しました。

○毎月12日（とうふの日）仮設住宅に豆腐を

「復興支援ネットワーク淡路島」と七ヶ浜町とのご縁は昨年3月の末にさかのぼります。淡路島から何度か救援物資と義援金を届けるなか、町の職員の方から「救援物資が入り切らなくて困っている」と相談され、不要となった冬物の古着などを10トトラックで淡路島に持ち帰り、使えるものを分別し、バザーを開き、その売上金を町長さんに手渡しました。そして、これに義援金を加えた100万円余で、「みお七ヶ浜」が作る豆腐を一括購入し、毎月12日に仮設住宅に配ってもらうことにしました。

仮設住宅のみなさんに、復興に向けて立ち上がった被災の翌日にあたる日に豆腐（とうふ＝12）を食べってもらうことで、被災者を元気づけるとともに、併せて授産施設の支援を考えたのです。



古着の分別をし、バザーを開催
義援金に加える（淡路島洲本市）

さらに、11月には、淡路島の女性グループ33人が、「阪神・淡路大震災の時に全国から支援を受けた恩返しに、自分たちで作ったものを直接届けて被災者を励ましたい」と夏から育てていた作物を持って七ヶ浜町を訪れました。ダイコンやサツマイモ、タマネギなどの野菜約1トやぞうきん、廃油リサイクル石けんをエコバックにいれ、仮設住宅を手分けして回りました。そのとき、地元婦人会の方に案内してもらいました。今回22人が

参加した婦人会の会長さんは、お餅つきが終わったあとの茶話会で、「11月が大変だった。あれができたから、今回もできるかなと思った」と話されました。



地元婦人会のご案内で
仮設住宅を訪問（昨年11月）

○「あの経験」を風化させず次代に

兵庫県内の自治体は、被災地に現地事務所を設けるなどして、これまで延べ8万人余りの職員を派遣し、復旧・復興を支援してきました。また、例えば、今回のボランティアバスが県の助成を受けたように、さまざまなかたちで、阪神・淡路大震災の時の支援に恩返しをしたいという民間の人々の思いを積極的に後押ししています。

阪神・淡路大震災から17年がたち、まちの傷跡がほとんど見られなくなり、震災を経験していない人が増えています。支援バスに同行取材した新聞記者の方は、コラムで「入社以来、震災関連の記事を数多く書いてきたが、『被災地』『被災者』と書くたびに、阪神・淡路大震災を伝聞でしか知らない私には、ずっと心に引っかかるものがあった。私にとってはじめての仮設住宅だった」と報告していました。また、「倫理とは想像力だ」という言葉があります。私は、こうした紛れもない事実を知ることが、私たちの想像力の糧となると考えます。悲惨な事実を知ることをつい避けてしまいたくなりますが、やはり知ってよかったと思うことが多いのです。

今回の被災地を訪れる活動は、阪神・淡路大震災の「恩返し」との思いだけではありません。私たち自らが、あの経験を改めて思い起こし、次代に伝え、災害に備える教訓として、文化として定着させていくために大切なことでもあるのです。



阪神・淡路大震災 復旧・復興の歩み

【地震規模】 1995. 1. 17(火)5:46 52" M7.3 震度7 震源 淡路島北部 深さ約16 km
【被害】 死者 6,434 人 行方不明3人 負傷者 40,092 人
 家屋被害 460,357 世帯 249,180 棟
 被害額(直接被害・兵庫県内) 約9兆9,268 億円

【緊急・応急対応期】 発災直後から避難所期 (1995. 1～8)

未曾有の災害により、広い地域で多くの人々が被災し、一刻も早い救出・救助活動が課題となった。

避難所の生活環境改善や早期の仮設住宅建設が求められた。

人々の生活や経済活動の復興にはインフラやライフラインの早期復旧が不可欠であった。

- 災害救助法 10 市 10 町適用。全国の消防、警察、自衛隊が救助活動
- 全国からのボランティアが被災地で活動(1 年間で 138 万人)
- 被災避難者 316,678 人、避難所 1,153 ヶ所(1/23 最大)
- 義捐金の配分(第1次 2月、第2次 5月)
- 復興責任主体、国震災復興対策本部(2月)、県震災復興本部(3月)の設置
- ライフラインの復旧(電気、電話 1月、水道 2月、ガス、下水道 4月)
- 鉄道の復旧(市営地下鉄 2月、JR 在来線・新幹線 4月、阪神・阪急・山陽・神鉄 6月)
- 被災地での建築制限の実施(建築基準法・1月)
- 都市計画決定(二段階方式・2月)
- 全ての小中学校、県立高校で授業再開(2月)
- 阪神・淡路大震災復興基金の創設・事業スタート(4月)
- 「創造的復興」をめざす阪神・淡路震災復興計画の策定(7月)

【復旧期】 仮設住宅期 (1995. 9～98. 3)

住み慣れた土地を離れて暮らす高齢者をはじめ仮設住宅で生活する人々には、さまざまな支援活動が必要であった。

被災地の早期復旧のため、インフラ、住宅、産業に重点をおいて、さまざまな課題に対応する必要があった。

- 仮設住宅ふれあいセンター設置(95年 6月)
- 被災者復興支援会議発足(95年 7月)
- 全ての仮設住宅 48,300 戸完成、避難所の解消(95年 8月)
- 緊急復興 3 か年計画実施(95年 8月(住宅、産業)11月(インフラ)～98年 3月)
- 災害復興(賃貸)住宅一元募集開始(第1次 95年 10月～4次 97年 9月)
- 阪神・淡路産業復興推進機構設立(95年 12月)
- 阪神高速道路完全復旧(96年 9月)
- 生活再建支援金受付開始(97年 4月)
- 神戸港復興宣言(97年 5月)
- 被災家屋・ビルの解体瓦礫 1,430 トン処理完了(98年 3月)
- 被災地純生産の震災前を上回る(98年 3月)

【復興前期】恒久住宅移行期（1998. 4～2000. 3）

仮設住宅から恒久住宅への移行に伴い、被災者一人ひとりの生活再建への対応が課題となった。

震災直後の復興需要が一段落したうえに、全国的な不況が重なり、雇用の確保や新たな仕事づくりが課題となった。

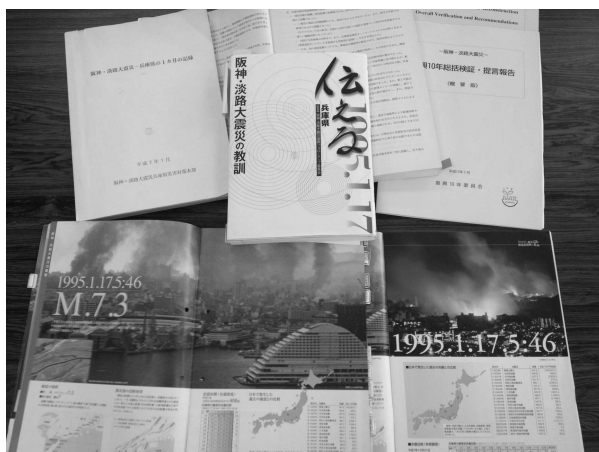
- 災害復興公営住宅全戸(38.6千戸)着工、恒久住宅169千戸供給(98年3月)
- NPO法制定(98年3月)
- 明石海峡大橋開通(98年4月)
- 北淡町震災記念公園・野島断層保存館オープン(98年4月・淡路島)
- 被災者生活再建支援法成立(98年5月)、被災者自立支援金受付開始(7月)
- NPOと行政の生活復興会議発足(99年7月)
- 仮設住宅入居世帯の恒久住宅への移転完了(2000年1月)

【復興後期】本格復興期（2000. 4～）

震災から5年が過ぎ、社会基盤や住宅の復興が進み、本格的な生活復興の段階を迎えた。

高齢者の自立支援やまちのにぎわいづくりなどへの取組、21世紀の成熟社会にふさわしい安全で安心な社会づくりを目指し、新たなステップに踏み出すことが求められた。

- 淡路夢舞台オープン(00年3月・淡路島)
- 震災復興計画後期5か年推進プログラム策定(00年11月)
- 高齢世帯生活援助員(SCS)制度創設(01年11月・復興基金)
- 県立美術館「芸術の館」オープン(02年4月・HAT神戸)
- 「人と防災未来センター・防災未来館」オープン(02年4月・HAT神戸)
- JICA 兵庫国際センター開設(02年4月・HAT神戸)
- 震災復興計画最終3か年推進プログラム策定(02年12月)
- 兵庫県こころのケアセンター開設(04年4月・HAT神戸)
- 「ひょうごボランティアプラザ」オープン(02年6月・神戸ハーバーランド庁舎)
- 国連防災世界会議「兵庫行動枠組」採択(05年1月)
- 兵庫県住宅共済制度創設(基金財団設立 05年3月、制度運用開始 同9月)
- 県震災復興本部・産業復興推進機構廃止、(05年3月)
- 県立芸術文化センターオープン(05年10月・西宮市)



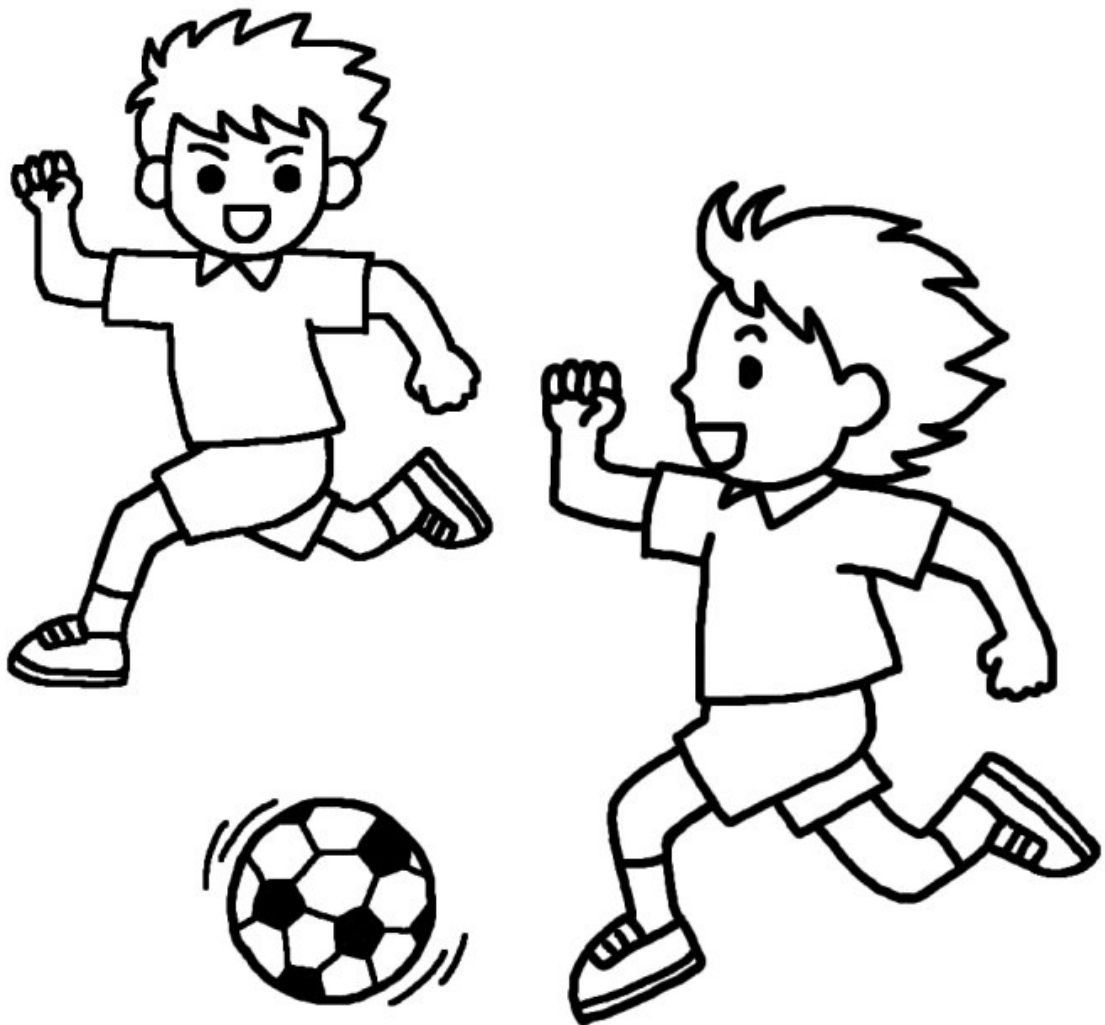
【参考文献】

- 『伝えるー阪神・淡路大震災の教訓』ぎょうせい 2009年3月
- 『フェニックス兵庫ー創造的復興10年の歩み』阪神・淡路大震災復興基金 2005年3月
- 『震災15年創造的復興の歩みーフェニックス兵庫』阪神・淡路大震災復興基金 2010年3月

文責：鬼本

特別企画

青春対談



特別企画 青春対談

青春の系譜
サッカーに打ち込んだあの頃



福井 英輔（時習 26） & 鈴木 優（時習 26）

福井氏と鈴木氏は、時習館時代、サッカー部で部長、部員の間柄にもかかわらず、卒業後は互いに会うことのないままでした。平成 23 年度の時習館同窓会関西支部総会で、やっと、再会されました。ともに年齢を重ねてはいても、特徴ある面影に、すぐあの青春時代の記憶が蘇り、その場で「近々また会い、当時の思い出を語り合おう」と約束され、つい先日それが実現しました。そこで語られた思い出話は、私達に多くの感動を与えてくれるものでした。皆様にもその感動に触れていただければと思い、ここにその対談内容を掲載します。

大阪駅構内「ホテルグランヴィア大阪」19F の料亭で再会した。会ってすぐ、エーちゃん、優くと呼び合う二人、楽しい対談が始まった。



サッカー部員の集合写真を見ながら
当時を振り返る二人

福井さん：やあ、お互い変わらないな。何年ぶりなんだろう。たしか、卒業後、一度、サッカー部の OB 会に来たことがあったよな。佐藤重明先生（時習館時代のサッカー部監督）の還暦祝いだったと思うよ。だから、13～14 年前なんだ。

鈴木さん：え！そうかな、余り記憶がないよ。どこだったのかな。（平野屋と聞き）三谷温泉の平野屋なら参加したのかもしれないね。それと、卒業 25 周年行事には顔を出した気がする。エーちゃんはテレビで観ていたのですぐ分かったよ。いつまでも若大将だね。

福井さん：テレビで観たとは？

鈴木さん：実は 10 年近く前、ワールドカップ日韓大会の頃、うち（関西テレビ）の系列のフジテレビで朝のワイドショーにエーちゃんが出演。ゴールネットを自社のオリジナル六角形網で作

り、それが世界各国で使われているというニュースだった。久しぶりに見るエーちゃんの姿に感激した記憶がある。

（すぐ話題はサッカーのことに）

福井さん：この写真覚えているかな。昭和 47 年の東海大会、上野高校グラウンドで撮ったものだよ。当時、時習館は三河で敵なし。三重県 1 位の上野工業を破り準々決勝に進出、全国制覇した清水東高に敗れたけれど、3 位の成績だった。この大会は三重県の伊賀上野市、修学旅行のような気分だったね。忍者屋敷に行ったのを覚えているよ。これが、伊賀上野城（白鳳城）だ。



昭和 47 年東海大会、上野高校グラウンドにて

鈴木さん：そうそう、寝間着の着方が分からなかったなあ。

当時はセンターフォワードに技量と攻守の要・エーちゃんが、これが、小柳津先輩だね…バランスの取れた守りの要。ここにいるのは松野尾君、芳賀君もいるよ。ともにフォワードだったよね。私は右のウイング（フォワード）だった。あ

の時、上野工業戦での先取点は私のヘッドイング、これだけは家族に語り継いでいる。

この時代が時習館のサッカー史上最強だった。

福井さん：それにしても当時はサッカーに明け暮れていた。私は八町小学校、いや、物心ついた頃からサッカーボールを蹴っていた感じがする。

時習館に入っても、サッカーしか頭になかった。グラウンドが、部室が我が城、我が庭だったね。

鈴木さん：エーちゃんは豊城中学のエース。中学時代から有名だった。だから、私は時習館に入学する前から知っていたよ。ちょうど当時はメキシコ五輪でサッカーが銅メダルを取った時期。釜本、杉山などのスーパースターがいてブームだった。その影響もあり、私も蒲郡中学時代からサッカーにのめりこんでいた。エーちゃんは大学卒業後ヤマハに行かれたと聞いていたのだが、いかがでしたか。

福井さん：そう、大学4年の時、関東学生ベストイレブンになったことで、ヤマハ（現ジュビロ磐田）、トヨタ（現グランパスエイト）、三菱（現浦和レッズ）の3チームからオファーがあった。

当時、ヤマハ発動機にはメキシコオリンピックで名を馳せた杉山隆一さんが監督で、彼から直々の説得があった。それが決め手でヤマハ発動機サッカー部に入部した。そこでのポジションは3年間センターフォワード。ジュビロ磐田のゴン中山の5代前のセンターフォワードに当たるんだ。

鈴木さん：ヤマハサッカー部を引退したのは？

福井さん：当時のヤマハは高校・大学や日本代表が全国から集まってくる。特に、ヤマハでは静岡やブラジルからの入部があり、毎年熾烈な生存競争が繰り広げられた。藤枝東や清水東のスーパースターたちの中には泳げない選手もいたけど、ことサッカーに関しては最高のテクニシャンだった。リフティングで80m ハードル走とか、10分間落とさないとか、練習のレベルも信じられないくらい厳しかった。

まず、入部してすぐ、レベルが違いすぎると感じていた。根性と気合いだけでは難しい。

鈴木さん：それは、曲芸じゃないか。サッカーは個々の力も大事だが、基礎だけでなく、その上に状況判断ができる能力が必要だ。

私はエーちゃんの「瞬間的に周りの動きを察知するゴールハンターとしての嗅覚」に期待していた。それに、将来は日本サッカー界を背負って立つ人材の「オーラ」があったけど。その後は？

福井さん：テクニックを磨くことに走ると、長所を失う。長所を伸ばす方が…3年間苦しみ悩んだ。燃え尽き症候群もあり、26歳で引退を決意した。新しい目標が難しくなると、虚無的になる。雑草のように上を見ているときは強いが、上を見て下を見ると失速する。そんな経験をしてきた気がする。

その後はヤマハの営業マンとして、インドネシアに2年、アメリカに6年、それぞれ楽しい経験をしてきた。33歳の頃、父から戻ってこいと言われ、悩みに悩んだ末、人生の流れかなと思って決断、福井漁網を継ぐことにした。その後、父が亡くなり社長業を引き受け、「FUKUI チャレンジ&レボリューション（FCR）」を目標に定め、次世代複合繊維メーカーを目指している。社名も「福井ファイバーテック」と改めた。

変革と挑戦、それに情熱…ヤマハでの経験が非常に役立っていると思っている。

優くんのその後は。

鈴木さん：高校卒業後は1年浪人し京都大学法学部に進み、現在は関西テレビの社長室長をしている。大学時代には夏休みや正月休みに蒲中や時習館の同級生、後輩とボールを蹴っていた。20代は東京支社員で、東京の広告代理店のサッカー部に入れてもらい月2、3回ゲームをしていた。だいぶ体力も衰えていたので、中盤から後衛に下がり、足がもつれて息切れすることが多かった。それでもその後の飲み会が最高の楽しみだった。

30歳を過ぎるとサッカーの実践からは遠ざかったが、観る方は歳をとるごとに熱中してきて、ワールドカップや、Jリーグ、なでしこジャパンとテレビで試合がある日は欠かさず観ている。最

員はナショナルチームではスペイン、クラブもFCバルセロナ。好きな選手は昔はジョージ・ベスト、今はシャビ、イニエスタ、セスク、シルバのスペイン・クアトロなどだ。私の夢は福井ジャパンの、英輔ジャパンのコーチをすることだ。

福井さん：サッカーにはロマンがある。内から沸き上がる情熱は今も気持ちを揺さぶる。日本のサッカーの戦いを観ていると、じっとしてられない思いになる。日韓W杯の準決勝の試合でトルシエの采配に、なんでここでサントスなのかと、腹立たしかった。今のチームでハーフナー・マイケルのワントップは無理、打点が高くないので潰されるよ。

日本の代表監督にはS Q資格が必要で、その資格をとり、監督をする夢を今も持ち続けている。

まずは、会社チームを作って、監督をする。

それと、時習館のサッカー部監督として全国大会の決勝戦までいきたい。鈴木ジャパンもあるね。

鈴木さん：その夢、必ず実現しようや。

(サッカー以外にも話題が及ぶ)

鈴木さん：時習館時代、サッカーが青春の全てだったと言うと少し格好よすぎるかな。受験勉強もフォークバンドも覚えたての麻雀もしたが、若者のエネルギーはやはり、サッカーだった。

とにかく、エーちゃんはキャプテンシーがあり公私ともに大黒柱。女性にモテましたね。高校時代はエーちゃんが眩しかった。

福井さん：恋愛のことはノーコメント。ただ、「サッカー部は硬派の集まりだった。部員は皆サッカーの練習に夢中になり、女性には見向きもしなかった」と書いておいて下さい。(笑)

鈴木さん：時習館の当時は、みな純粋「オクテ」であったような気がする。酒は少し飲んだことはあるが、サッカー部の仲間と酌み交わしたのは後年、OBになってから、煙草なんかもちろんプレーにこたえるからと厳禁。残念ながらエーちゃんと女性で争ったことも、卓をかこんだことも、一緒にコーラスしたこともなく、毎日グラウンドでボールを追いかけ、身体をぶつけ合っていた。

福井さん：そういうことにしておきましょう(大笑い)。恋愛観はさて置き、家庭論ですが…子どもは親の背中を見て育つ。特に男の背中の影響は大きい。今はそんなことを真剣に考えている。

鈴木さん：家庭では3人の子どもの恵まれ、大阪の茨木市で5人仲良く暮らしている。長男は小学校のとき町のサッカー部に入れて応援したがモノにならず、すぐやめてしまった。私はサッカーで最後まで諦めない根性を養い、その後の人生の糧になった気がするが、子どもに伝えられなかったのが残念だ。もう時間だね、今日は楽しかった。また、こんな機会があれば。

福井さん：久しぶりに優くと語り合え、サッカーに熱中したあの頃が蘇った。今度、佐藤先生を囲んで「40年後の集い」を行う予定なんだ。その時、また会えることを楽しみにしている。

鈴木さん：そうか、私も楽しみしているよ。

(最後に時習館の後輩に贈る言葉とお二人のモットーにしている言葉をいただいた)

福井さん：スポーツでは最近、名古屋、西三河、尾張の後塵を押し続けている、「東三河の諸君、名古屋をやっつけろ」と檄をとばしたい。それから、「自由闊達、楽しさを一生追い求める」。これを座右の銘としている。

鈴木さん：高校時代は何でも良い、一つのことに打ち込むべきと。私の座右の銘は「後ろの声を聞け」、サッカーの格言の一つだが、見守ってくれる人を大切にしたいと思う。

(対談を終え編集部からの感想)

福井さん、鈴木さんお二人とも「高校時代の思い出は」と問えば、「サッカーあつての時習館」と答える。その汗と涙と感動を力として、今もお、力強く人生を歩み続けているのが伝わってきた。とにかく、この対談には情熱と若さが満ち溢れ、その熱気に圧倒された。

二人は将来いつか「福井ジャパン」「鈴木ジャパン」の実現を誓い合い対談を終えた。鈴木氏は言う。「時習館におけるサッカーは『青春時代の夢と感動と挫折』とでも総括しておこう」と。

会員便り

乗り越える力



会員便り・乗りこえる力



思い出あれこれ (関西支部活動の歴史から)

杉浦 昭典 (豊中 47)



◎総会開催は持ち回りで

『時習館かんさい』第3号(平成元年)に当時の支部長佐藤愛二先生(豊中 37)が関西支部の歴史について草創期の思い出を書いておられます。昭和30年に第1回総会が開催され、翌年の総会で神戸商船大学の太田真治学長(豊中 12)が支部長になりました。昭和33年秋の神戸海洋会館における第3回総会で支部規約が制定され、京都、大阪、神戸の副支部長を決めるとともに総会開催地を1年ごとに大阪-神戸-大阪-京都-大阪の順に持ち回りとするようになりました。私が神戸の鈴木副支部長(豊中 23)の下で山口正夫先輩(豊中 34)とともに幹事として総会準備のお手伝いをするようになったのはこの時からでした。

◎5年間の空白期間を経て

その後2回、昭和37年と42年に神戸海洋会館で総会を開催しましたが、そのころから徐々に持ち回りの循環に停滞が始まったようです。神戸では山口先輩が副支部長として昭和49年に総会開催するはずのところ、神戸海洋会館が使えなくなったこともあり、結局は私の怠慢でどうにもならず、佐藤先生にお願いして神戸の順番を飛ばしていただきました。京都でも同様な事情だったらしく、佐藤先生の手記にも「長い空白期間」として回想されています。昭和52年から56年までの5年間の空白期間を経て57年から平成3年までの総会はずばら大阪で行われましたが、その度に神戸で開催できなくなった責任を感じていました。

私が神戸の副支部長という立場になったのは関西支部が新体制になった昭和57年からではな

かったかと思いますが、あまり定かではありません。副支部長とは名ばかりで何のお役に立てそうもなく心苦しいだけでしたが、それまでの経緯を考えるとむげにお断りするわけにもいかず、平成8年になってやっと交代していただき、ほっとしました。長い空白期間の要因にもなった私の怠慢に対して嫌な顔一つされることなく、いつも優しく接してくださった佐藤先生の温顔を思い出すと今でも申し訳なく胸がつまります。



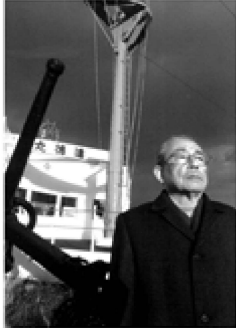
女性会員に囲まれた佐藤愛二先生

◎難航した名簿づくり

今とは違い昭和30年代の総会案内状はガリ版印刷の往復はがきでした。宛名は手書きです。神戸で総会を開催する時も案内状の印刷は佐藤先生がご存じのガリ版印刷所に頼んでくださったので、その折には北野病院へお訪ねしたものです。宛名書きは『時習館同窓会関西支部名簿』によりましたが、最初はまだ支部の名簿がなく本部の『同窓会名簿』から関西在住の人を拾い出すのに結構手間がかかったという記憶があります。

関西支部の会員名簿は何度か作成されていたように思いますが、勤務先の職場に置いていたので、退職の時点に他の同窓会資料とともに全部焼却処分し、手元に残っているのは(1989年現在)とある1冊だけです。名簿の印刷は阪神印刷(株)の小澤豊生先輩(豊中 45)のご好意に

よっていました。小澤先輩のご子息が『時習館かんさい』(第16号)に何か書いておられたのをふと思い出し、引っ張り出してみますとその次のページに「関西支部神戸の思い出」と題した私の短文がありました。



日本丸
神戸港高浜岸壁にて

何のことはない、神戸新聞の熊谷信哉氏(時18)が佐藤先生の「関西支部の歴史」を土台にしてまとめられた「時習館関西支部の歴史(2)」の中にあつたのをすっかり忘れていたのです。ページを操ると昭和42年5月の神戸海洋会館における支部総会での集合写真があり、その日偶然同館に宿泊されていた小室鉦先輩(豊中19)が加わっていたことを記しているのに気が付きました。小室先輩は母校金田誠一先生の実弟です。私にとっては20数年ぶりにお会いする懐かしい先生でした。

○生きる姿勢 恩師から

昭和20年、終戦前の話です。高等商船学校で小室教授による航海計器の講義を受けていまし

たが、終わるとすぐトイレに行きたくなり、講堂(教室)から真っ先に飛び出そうとした途端「待てっ」と一喝されました。びっくりして先生の方へ向き直り直立不動の姿勢をとりましたが、「教官より先に出るんじゃない」といいながら私の名札を確かめるように見た先生は「よし」と一言、あとは黙って出て行かれました。若い教官なら一発殴られたかも知れません。先生は私が時習館出身であることをご存じだったようです。

退職後はすぐ豊橋に帰って隠棲する予定でしたので、定年が近くなつたころにはそれまでの記録を整理し処分してきました。ところが、直前になっていくつもの仕事が舞い込み、関西を離れることができなくなりました。今になって昔を思い出すにはやはり記録を残して置くべきでしたが、どうしようもありません。後悔先に立たずです。



朝日奈、春山元支部長と

ふるさとの山に向かひて言ふことなし

ふるさとの山はありがたきかな--石川啄木

豊橋に帰る機会があり、久しぶりに本宮山に登ってみました。昔見た風景に懐かしさがこみあげ、感無量でした。



本宮山に豊川のほとり、時習館の校庭、高校時代の思い出はいつになっても消えませんが、そればかりか、歳を重ねるにつれ思いがつのります。時習館同窓会関西支部はその思いを共有する私たちに残していただいた貴重な財産です。

「いつでも立ち寄れる、心のふるさと」として、半世紀以上続いています。その間、先輩諸氏の並々ならぬご苦労があつたこと、ここに垣間見た感がいたします。その歴史の重み、私たち後輩が引き継いでいかなければなりません。

継続の「力」は、会員の皆様の協力と先輩諸氏の貴重な経験及びアドバイスです。今後とも折に触れ、先輩諸氏からのご指導よろしくお願ひいたします。 編集委員会

会員便り・乗り越える力



「随想」 洗濯からの連想

春山 丈夫（豊中 47）



○「水」の再発見

豊橋中学在学時、『武人』という受験雑誌に「水」という出題に応募して優秀作に選ばれた。悠々たる水の流れ、洗浄力、氷→水→水蒸気、水の変化対応力などを記事にしたのを覚えています。

海軍機の特攻生産で一年有余もの勤労働員を経て終戦。浜松工専（静大工学部）に復学、授業再開です。戦後、航空機の研究は罷り成らぬとのマッカーサー指令で航空工学科から機械工学科へ転科を余儀なくされた。教科書もノートも配給で乏しく、黒板と机・椅子だけの仮校舎ながら空襲から解放された学習の喜びでした。英語の授業は相変わらず苦手でしたが、機械仕事の動員体験が活きて講義の一語一語が身に染みしました。

興味津々の科目は「水力学」や「機械設計」でした。発電所勤務の講師から「水のエネルギー」の仕組みを学んだ。卒業研究は水を連続注入する「ロータリーポンプ」の試作実験でした。後々、これらの新しい知見が実務に役立ちました。

「ライフワーク」にもなったのでしょうか？

○「洗う」と言う言葉

昭和16年は開戦の年、豊橋中学入学で先ず教えられたのが敬礼動作でした。

「顔を洗って出直して来い」。挨拶・服装にやかましい軍事教練教官の言葉です。早朝の集合、ゲートル巻きの点検も不十分でモタモタする。整列時間に遅れてしまうと運動場一周をさせられる。校舎の片隅にある洗面所に立ち寄って体調を整えよと。教官から直接、敬礼動作や服装を注意されるより応えたのです。後日、部下を持つ身に

なった時、朝礼では「洗顔で一日が始まる」と意識して心掛けるようになりました。

「足を洗え」。動員中の職場では不良仲間から脱け出せという意味がありました。「挙国一致」の職場にしよう、転じて、新しい人生に「方向転換」をしよう。

徴兵年齢が19歳に引き下げられ、予科練、特幹、陸士、海兵…出征兵士の同級生を見送ったのです。私もその一員でした。

「頭を洗え」昭和23年、学校推薦を受けて早川電機（現シャープ）に入社しました。大正生まれの軍隊経験のある先輩の言葉です。戦後の混乱期は「雑念」を捨てよう、「初心に立ち帰って考える」再出発の合言葉でした。

当時は、5球スーパーラジオ、民間放送ブームに続き「国産テレビの開発」に集中していました。電気屋、無線屋は多いけれど機械屋が少なかったため、入社早々から機械工作の仕事です。学生時代の勤労働員やアルバイトで体験した「ものづくりの技（ワザ）」が役に立ちました。やがて家電業界は「三種の神器（テレビ・冷蔵庫・洗濯機）ブーム」を迎えます。従業員も少人数でテレビ開発に集中したので、洗濯機の着手が遅れました。

私が洗濯機の新製品開発を担当したのは昭和31年頃です。

いざ着手、洗濯関連の特許公報がうず高く積まれた中でのヒント探しから始めました。「これ！」というアイデアはいずれも他社特許が先行しており、如何にして特徴ある新製品を開発するか？連日連夜、試行錯誤の繰り返しでした。

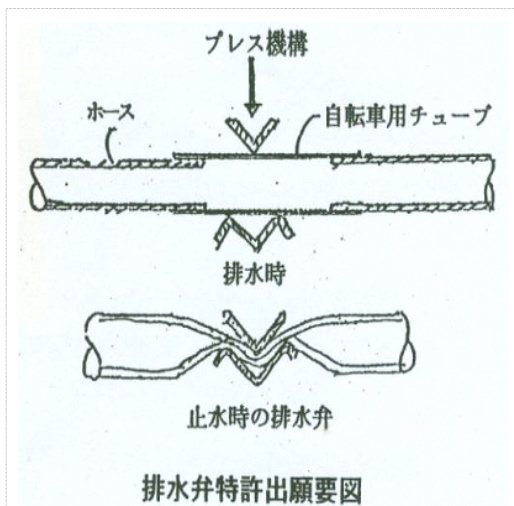
他社特許に追い込まれると、何もかもが洗濯機のヒント→アイデアに見えてくるものなのです。朝の洗顔、水道栓を捻ると勢いよく水が飛び

出す→この噴流がジェット洗濯機にならないか？洗面器の形状が気になる→シャワーとの組み合わせをどうする？新聞を開くと「洗」の字が真っ先に目に飛び込む。その頃「洗剤」の広告が多かった→普段は見向きをしない広告に注目、洗濯ものはいろいろ、共通の洗剤はないか？通勤電車の中では「洗う」という会話に聞き耳をたてる。という具合です。

○洗濯機の開発

ある日の風呂の中の出来事です。私は身体の容積が大きいので風呂水が溢れ出す。そこで、アルキメデスの原理よろしく、体積分だけ水位を下げてみた。これは特許になる！→洗濯物の容量に応じた「可変水流オーバーフロー装置」が出願できたのです。

初期の他社洗濯機はいずれも「排水」と「すすぎ」の2本のホースが常識だった。これを1本のホースの洗濯機にできないか？→これには排水・すすぎを切り替える「排水弁」が必要→安価な自転車チューブの上下機構弁を発案しました。



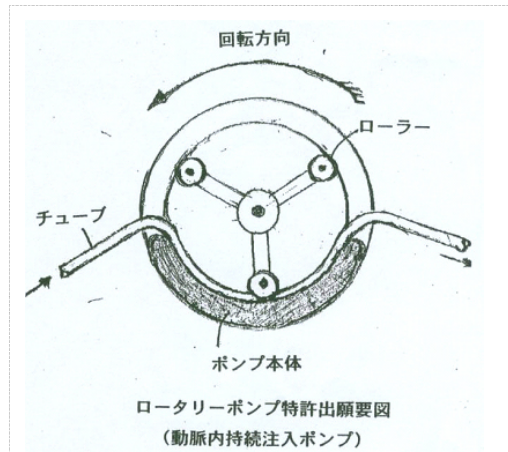
1 本ホースの洗濯機を排水弁の開発で実現

水流実験の最中、ホースを踏んだら水が止まった。この当たり前の話がヒントになってヒット商品になったのです。

排水弁に採用の自転車用チューブを順次しご

いたら中の水は移動する。これをローラー機構にしたらポンプにならないか？ 止水機能から排水機能へ→逆転すれば給水機能になる。学生時代の卒論だった「ロータリーポンプ」を小型軽量化したアイデアを発想したのです。

さらには医療機器分野で、制ガン剤を連続投与する特許名「動脈内持続注入ポンプ」へと発展したのです。



医療機器「動脈内持続注入ポンプ」へ発展

○根元を洗うこと

転じて、趣味の世界の庭仕事で「根元を洗う」のです。さつき盆栽の剪定では大枝・小枝の樹形を楽しむ。銘柄にもよるが、この芽を伸ばすか、この枝を切るか、こんなのはどうだろう。

様々なデザインをあれこれ考える醍醐味があります。丸鉢・角鉢によって根の張り方も様々、さつき鉢の植え替えは、根の成長度合いを観察しながら、こびりついた「汚泥」を取り除き、丁寧に洗う。中でも、根元を綺麗にすることがより大切と知りました。鹿沼土を大・中・小粒によりわけて土替える、水をかける、これで盆栽の出来上がりです。

さらに転じて、東日本大震災の復興対策です。津波に洗われた街をどう復旧するか、放射能「汚泥」をどう始末するか？ 連日のように役所・支援団体の連携論議が活発です。これら組織中枢の『根元を洗うこと』ではないでしょうか。

会員便り・乗り越える力



長き関西 京都での生活から

中村 和歳（時習9）



戦後間もない昭和29年、未だ豊橋18連隊等の兵舎があちこちに点在した高師が原に、時習館高校があった。昭和20年6月19日に豊橋大空襲で焼け野原になった豊橋の町には、「焼け跡」と言われるところがまだまだ点在していた。高校1年4組（担任は富安先生）で高校生活が始まった。共学ではあるが、クラスの男女比は選択科目の関係で全クラス統一ではなかった。自分の選択した科目に責任を持って、学びが始まった。希望に満ちて入学したが、教室は兵舎の後利用だから、校舎中央の通路（廊下）の両側に教室があり、4組は北側だった。夏は涼しいが、冬はきつかった。物資不足の折、贅沢は言わなかった。

○「自転車通」の時習館高校時代

通学は、町中の生徒とは違い神野新田（牟呂）からの自転車通学だ。片道7キロを3年間通った。雨の日も風の日もだ。勉強もさることながら、精神的にも、肉体的にも鍛えられた。



2011年11月10日
時習館卒9回生3年2組クラス会 at 奈良
(右から2人目が筆者)

中学時代から英語が好きで、英語の勉強にはこだわりがあった。クラブも英語部に参加し、文

化祭には、先輩や同年の部員と英語に関する展示、文通相手の手紙を展示した。このころから異文化交流（中学時代にアメリカ人、イギリス人と文通していた - このことは大学時代までつづき、大学のCaravanクラブで活動し、いまだに当時の仲間と交流している）で、Global時代を先取りして活動していたのか。やがて教員になり、英国留学や生徒たちの短期英語圏留学を引率して、カナダ、アメリカ、イギリス、オーストラリアへと同行引率は拡大（9回）する。わが生涯の生活の根幹がこの時代に形成されたと言える。

○関西の大学に進学を選択

地政学的には、愛知県は家康の時代から、江戸、関東方面に50%出かける。地元中部地方に30%、そして関西方面には20%が出かけるようだ。時代と共にこの数字は変化するが、概ね変わらない。当時も、現在と同様に偏差値で大学選びが行われた。「関西の京都の町で学びたい」。

大学では、英語を学び、世界を学び、人間的成長を求めた。そして、日本の古都京都の1200年の歴史と文化に触れながら、日本の古来からの生活習慣を日々触れながら生活し、世界から来る人々に出会えば、青年の心は満たされ未来に道が開かれると思った。

大学での学習は、英語と文化、芸術に接して学習したい。幸い、立命館大学には末川博総長がおられ、文学部には、京大の英語演劇を専門にされた山本修二先生、石田幸太郎先生が教鞭を取っておられた。英語演劇の菅泰男先生のShakespeareの講義も聞くことが出来、イギリス演劇、日本の演劇、英語詩を学べた。学生時代に演劇を見る機会も増え、歌舞伎にも触れた。もちろん、先輩た

ちとともに自主的に研究室助手の方と輪読会を開催し、英語演劇も上演して学生時代を送った。こんな文化の中で生活が出来たのはいい仲間に出会え、恩師に出会えたことである。関西には親戚も知人もいないその社会で、自立心を鍛えたかったことが、心のどこかにあり、反体制的な思考を追求したいという、どこか反骨精神が芽生えていたのかも知れない。「自分の生活は、自分の力で切り開く」という狭いながらも若き青年の魂が叫んでいたのかも知れない。学生時代の4年間で多くの仲間と出会い、いまだに毎月杯を酌み交わし、旅をする Caravan クラブの仲間がいる。



2011 Caravan 北海道大会 DSCF にて

振り返っても満足いく学生時代であり、当時、次男である自由さを謳歌出来、田舎の兄貴や両親、兄弟姉妹には感謝している。また、大学時代のアルバイトは、映画スタジオの多い京都での映画のエキストラ参加だ。見るもの、聞くことすべて新鮮だった。そして、あの葵祭や祇園祭や時代祭ではアルバイトとして参加した。見る側でなく、演ずる側からの参加であった。最後に、卒業論文では、英国の劇作家、評論家の G. B. Show の作品“Man and Superman”を研究した。

○卒業後の進路は

自分の中学時代の英語教師への憧れがあり、英語教師になることが学生時代の一つの目標だった。一時期演劇の道に行こうかとも考えた。マスコミ関係の芸能記者にも憧れた。最後には、愛知県の教員採用試験に合格し、今は廃校になってし

まった山の学校「浅野中学校」に英語の教員として赴任した。1年目、2年目は学ぶことが多く、英語テキストの“Jack and Betty”の教科書を1年生から3年生まで、束にしてまとめ、音声重視の授業に徹した。1年目の郡内英語暗誦大会では、1年生が優勝し、学年挙げて喜びあった。出会う生徒たちとスポーツをし、語り、日曜日のクラブ活動も嬉々として参加し、夜が更けるのを忘れて語り、活動したほどだ。3年目、郡内の人事関係、また、教員の人間関係の複雑さも体験し、その内容が分かりはじめ、学生時代の仲間の活動や仲間の文学研究が聞こえてくる。「俺にも、まだ何か出来る」気がした。

師範学校出身の新任校長が何かと気になる発言をした。思い切って大学院での研究生活に舵を切った。今でも当時の生徒たちの中には、文通やメール交換が出来ている卒業生がいる。クラス会には参加して懐かしい交流をする。3年しか教壇に立たなかった学校もわが人生の中では大きな学校だ。

○わが第二の故郷となる京都へ

大学院を受験し、イギリス演劇を学び、山本修二先生に師事し、学びを再開した。いつかイギリス演劇研究のために英国に留学したいと意欲を燃やした。研究をしながら非常勤として、そして専任採用に合格し、京都で再び教壇に立った。それが、わが生涯の京都生活の始まりとなった。そして、4年間の学籍を持った研究生生活を終え、現職の教育活動に専念した。英語教員とバスケット部顧問を経て、東京オリンピックの影響で高校にサッカー部(初代顧問)を発足することになった。

学校では、専ら生徒と出会い、授業に、クラブに、教科外活動にと可能な活動は全力でぶつかった。組合活動にも、学園紛争時代生徒の自治活動の在り方や学校の在り方にも体当たりで学び、仲間と語り議論した。京都の私学の歴史を教職員として、また理事者として学ぶ機会を得た。

立命館学園という学校組織体の中で、役職で表

現すると高等学校の生活指導部長、副校長、中学の副校長、そして中学校・高等学校の校長・学園理事を歴任した。また、学校の改変「男女共学化」「国際交流推進」「学校拡大と移転」を体験した。学内の役職は公選制をとり、選ばれた諮問委員会が次期の校長を選出。その校長を中心に全体の組織を発表し、教員会議で承認される体制であり、主にすべての役職は3年任期であり、なお再任は妨げない。30歳から49歳までで、役職を4回体験した。1回の役職を3年務め、そして、3年現場に立ち返り、さらに実践を積んで、次のステップを担当するシステムである。教員の留学制度も発足させ、1990年に英国1年間の研修留学を体験し、現場の英語教育に貢献した。

○教員の仕事の本質は

どこで育っても必ず先生という人に出会う。その人の影響を受けてその後の人生を生きる。

そんな先生を天職として生きる時の覚悟を考えた。「誠実と人間愛を根幹とした人間教育を追求する生き方が必要だ」と。若い時には権威に反発をし、ガキ大将に反感を覚え、病弱な老人には優しく親身になった。そして、教室では、すべての生徒に平等に対応し、教科内容は科学的に真実を共に見出す教育実践を展開するよう努めた。常に生徒に接し、学ぶ側の好奇心を大切にしたい。挨拶から始まり、授業、授業以外、クラス活動、クラブ活動、学校行事、学校で行うイベントには全力で関わるように努めた。退職前年には、今までの教員生活で獲得した知恵を年間通してクラス活動に投入した。クラス独自の活動を10種（スポーツ大会、美術館・博物館めぐり、京都探検等）展開し、生徒と共に楽しんだ。そのようなことを実践することが出来たのは、常に新しいものを創造する自由な校風と素晴らしい教職員仲間と巡り合えたからであろう。

○生涯現役を追求して（環境活動に参加して）

全力で生きた教職の生活を退く時考えたこと

は、「これからはすべてが消費活動になる。でも命ある限り、生産活動（社会貢献）に参加したい」と。もちろん、数年は非常勤講師をしたが、京都市の地域権利擁護事業支援活動に参加している。その後もさらに、あの「京都議定書」発行の環境宣言都市・京都で環境活動に参加することにした。「京都議定書」発行を記念して建てられた「京エコロジーセンター」での半年の研修とその後3年間のエコメイト活動、環境をテーマにした展示館で学びながらの環境ガイドボランティアだ。ボランティアの自主的な企画で始めた「クリスマス・エコフェスタ」にも参加している。



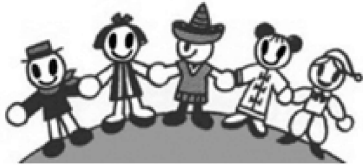
「第5回クリスマス・エコフェスタ 2011」での集合写真

また、2007年のバリ島で開催されたCOP13世界大会には京エコロジーセンターを代表して、京都の高校生2名と共に参加した。

そして、今、京エコサポーターとして、各府県にある「京都府地球温暖化防止活動推進員」に登録し、全国ネットの「うちエコ診断員」の資格を取り、府民や市民に省エネ、創エネ、節電を呼び掛けている。

また、2001年に「Blue Sky and Clean Air for the Youth!」を願って、太陽光発電3kwhを自宅に設置した。今、NPO法人太陽光発電所ネットワークに参加し、PV-Net 京都地域55名の代表をし、関西200名、全国約2500名の仲間と再生可能エネルギー普及、創エネ、「エネルギーシフト」を共に研究している。

会員便り・乗り越える力



パプアで教育支援

菅原 民生（時習 10）



パプアニューギニアの国土はオーストラリアの北に横たわるニューギニア島の東半分と周辺のいくつかの島からなりたっていて、赤道から南緯 12 度の間にすっぽり入る南国です。



ラバウルやブーゲンビル島など、太平洋戦争の激戦地として、また水木しげるの「ゲゲゲの鬼太郎」の妖怪のヒントにもなったことで知られています。

私が長崎大学を定年で退職しようとしていた2005年の2月、「JICA(独立行政法人国際協力機構)がパプアニューギニアの教育支援プロジェクトで、数学教育の専門家を探しているが協力する気はないか」という問い合わせが来ました。

もともと他人の役に立つことは好きだったし、外国や外国語にも興味があったので、お引き受けしました。

4000メートルを超える高山や深い谷に国土を寸断されて、800の部族が800の言語を持っていると言われるような統一されにくい条件下にある国です。

鉄道は全くなく、道路も主要都市の周りだけで、離島はもちろん、主要な都市のあいだも、航空機に頼るしか方法がないのです。

1995年ごろから教育改革が進み、小学校は日本と同じ1年から6年までだったのを、3年から8年まで

の6年間に引き上げました。小学校の先生は7年、8年(中学1年、2年に相当)の授業までを担当しなければならないことになり、特に数学と理科のレベルが高すぎて、もはや教えることができなくなってしまいました。

旧制度	年齢	学年	新制度
高校	17	12	中等学校
	16	11	
	15	10	
中学校	14	9	小学校
	13	8	
	12	7	
小学校	11	6	基礎学校
	10	5	
	9	4	
	8	3	
	7	2	
	6	1	
	5		

○ 数学 理科の授業をテレビ収録

そこで、このプロジェクトでは、数学と理科について、教室で実際に生徒に対して授業を行い、それをテレビに収録して編集し、番組として送信することになりました。地方の学校ではそれを受信して、教師と児童が授業で活用する遠隔教育です。収録する授業を「モデル授業」、それを担当する教師を「モデル教師」と言います。私と理科担当の専門家は、モデル教師に対して教科内容の理解や、授業計画案をどう作るかなど、教授法を指導して、モデル授業の質を高く保つ事が一番大きな任務でした。



モデル授業を撮影しているところです

○ 実情を反映しない“学習指導要領”

モデル教師は、学校視察官によって推薦された優秀な先生が集められました。しかし、プロジェクトが始まって次第に判ってきたことは、モデル教師の数学の力がとても低いことで、それが中学2年相当の授業を担当するわけですから、とても大変でした。



日本の「学習指導要領」に相当するものとして、オーストラリアの指導の下に作られた「シラバス」と呼ばれる授業内容の一覧があって、授業計画はこれに忠実に沿うものでなければならぬとされました。しかしこのシラバスは必ずしもこの国の実情を反映したものではなく、モデル教師の力に対して明らかに難しすぎましたが、すべてはこのシラバスと矛盾しないように配慮しなければなりませんでした。

また授業は、生徒が容易に理解できる易しいものでなければならぬし、テレビ番組として受信されたとき、鮮明に見えるように作られなければなりません。



例えば上の写真は、1立方メートルの体積を教えるのに、1辺が1メートルの立方体を作って見せているところです。紐が細くて見にくいのですが、授業を準備しているとき、ちょうどいい太さの紐が手に入らなかったのです。

○ 集中セミナーで効果アップ

初めの一年は、8学年の授業を実施して各学校に配信しました。授業が終わると翌日の授業の準備をしなければなりません。授業内容が十分に理解できているか、もし理解できていない場合は大急ぎで説明する、そんなゆとりのない状態が続きました。それでも少しずつ、私自身が指導に慣れ、十分なコミュニケーションが取れるようになると、次第に落ち着いた日常になっていきました。2年目になると、モデル教師をホテルに2週間缶詰にして集中的にセミナーをする機会がありました。下の写真はその様子です。



「2週間ホテルに缶詰」は、一息にまとまった事を教えるとともに効果的だということがわかりました。プロジェクトの間にこのような集中セミナーを3回実施することが出来ました。今、思い

返してみると、このときの時間が、私にとっても彼らにとってももっとも幸せでした。

○ 援助は気長に

この国の教育上の困難さを考えてみると、大きく原因が二つ考えられます。

一つはこの国の遅れている現状で、その原因はまさに教育の遅れですので、卵が先か、鶏が先かというような議論になってしまいます。たとえば、計算がかなり理解されているのに、幾何学的なものの見方が全くできませんが、それはまさに彼らの生活の中に幾何学を必要とする状況がとても少ないということなのでしょう。

もう一つは、この国が 35 年前まではその植民地で、今もその強い影響下にあるオーストラリアの、この国に対する姿勢です。ほんとうにこの国を良くしようという意思があるのか、半植民地状態を続けさせている方が有利と計算しているのか。

国際協力の先輩がしみじみ言いました。「太平洋の水をバケツで汲んでいるような気がする時があるよ」と。同感です。しかし、それはそれ。パプアニューギニアでの教育支援は、長い目でとらえ、気長に根気よく続けていくことが大切でしょう。

○ピジン英語をちょっとだけ

ピジン英語とは、南太平洋の島々で使われている英語を元にした簡単な言語です。宣教師や商人が現地の人々と交流するために広めたとされています。島や地域ごとに少しずつ違い、パプアニューギニアのは [tok pisin] トクピジンと呼ばれています。

人称には所有格や目的格の変化がなく

私 me は [mi] ミー

あなた you は [yu] ユー

我々（あなたを含む）は [yumi]

我々（あなたを含まない）は [mipela]

あなたがたは [yupela]

語尾の [pela] はさらに例を示しますが、複数の意味するわけではありません。

犬 dog は [dok] で複数形はありません。

一匹の犬 one dog は [wanpela dok]

二匹の犬 two dogs は [tupela dok]

何匹かの犬 some dogs は [sampela dok]

たくさんの犬 plenty dogs は [plenti dok]

男 man 雄 male は [man]

女 woman 雌 female は [meri]

雄犬、雌犬はそれぞれ [dok man], [dok meri]

Hello (Good day) は [gude]

Good morning は [Moning]

Good afternoon は [Apinun]

見る see と look は [lukim] ですから

さようなら See you は [lukim yu] です。

ありがとう Thank you は [tenk yu]

もっと丁寧に [tenk yu tru]

[tru] は 本当に true で、意味を強調します。

どうもすみません Very sorry は [sori tru]

水 water は [wara]

[solwara] は solt water で、塩水=海

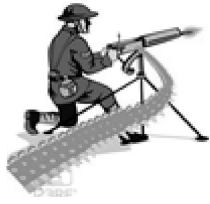
私の名前 [sugawara] は sugar water で甘い水ですと言うと、みんなすぐ覚えてくれます。

とっておきの一枚

セミナーの休憩時間に、モデル教師たちと一緒に

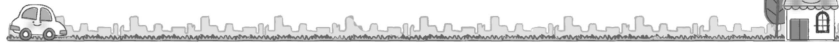


会員便り・乗り越える力



幻の兄、シベリア抑留中に死す！ 「今日も暮れ行く異国の丘に、 友よ辛かる切なかろう」

鈴木 茂樹（時習 12）



平成 23 年 5 月 28 日、太閤園での関西支部総会・同窓会を一週間後に控え、前夜祭を兼ねた打ち合わせ会が梅田で開催された。その席上、熊谷さん（時習 18）から翌年の『時習館かんさい』への寄稿を約束させられてしまった。

『時習館かんさい』第 21 号（平成 19 年発行）で 3 番目の兄・鈴木 哲のことを書かせていただいた。豊中 43 卒、海軍兵学校へ進んだ後、1944 年 6 月 19 日マリアナ海戦において空母翔鶴上にて戦死している。この執筆打ち合わせのやりとりの際、もう一人、豊中出の戦死した兄がいるようなことに触れた事があったが、熊谷さんはこれを覚えてみえて、「風化していく大戦のことを若い同窓生にも語り伝えて行くことも大切なことであり、是非、もう一人の兄のことも書いて欲しい」との依頼であった。

○長兄 千一良

安請け合いしてハタと困った。私は鈴木家の五男として生まれた。継母の子は私だけで、4 人の兄、1 人の姉とは歳が随分離れている。私と 20 歳違いの鈴木家の長男、千一良のことは何一つ頭に浮かんでこない、写真すら空襲で焼けてしまい残って無く面影すら分からない状態である。親・兄弟の中でも健在なのは 84 歳になる嫁いだ姉くらいである。

そこで、長兄・千一良を少しでも知るよすがとして、改めて関係者に話を聞き、多少なりとも資料を掘り起こすことが出来た。今回はそれらをご報告することで、あの悲惨な戦争の一端を皆さん

に知ってもらい、あわせて千一良の供養としたい。

千一良に関する記憶がないため、この稿の大半は古い資料を多用した。何しろ半世紀以上も前のものである。原文どおりでは大変読みづらいので、文の主旨を変えない程度に、手直したことをお許し願いたい。

嫁いだ姉の夫、義兄の 49 日の法事が昨年 6 月 18 日に豊橋で行われた際に、甥から「家の仏壇に千一良さんの手紙他が残っているが全然読めない。また、松葉町のスナック・マイアミのお父さん（飯田 栄氏、豊中 39 回）が千一良と同窓でよく知っていた」との話を聞いた。

名簿から我々や先妻吉原さとみ（時習 16）が教えていただいた磯貝先生が同期生であったことを知る。

7 月 16 日、毎年恒例となっている祇園祭の棧敷での花火見物のため豊橋を訪れる際に残っている手紙を貸してもらう事と飯田大先輩にお会いしてお話をお聞きしたいと頼んでおいた。そして、これらが 7 月 17 日（日）実現したのである。

【資料その 1】

昭和 17 年 1 月 10 日付

「千一良兄の入営祝控」父耕一が記したもの。親類縁者、町内会、友人などから祝い金をもらっている。父の兄弟、本人の叔父からが 10 円～20 円、その他は大体 1 円から 2 円といったところ。中に「赤飯」とあるのは白須賀の親戚から。

【資料その2】

千一良本人からの軍事郵便が2通残っているが、父、耕一あて御便り有難く拝見しました。

皆様、昭和19年の新春を御目出度くお迎え遊ばされ誠に御同慶に堪えず、小生も北支の一端にて正月を迎えました事、誠に慶びの他ありません。

南方に於ける熾烈なる決戦を憶ひ、覚悟を新たにし益々御奉公の誠を捧げ奮闘致します。皆様にも充分ご自愛下され御過ごしを。

そして、7月17日(日)10時から約20分間、お宅を訪ねさせていただき、飯田大先輩のお話を伺った。御年齢90歳、目がご不自由で耳もかなり遠くなってみえて、お互い「怒鳴りあいながら？」の会話となった。

「豊中で千一良くんと同級になり、また近くの後藤君(息子さんが弁護士を開業している)と連れ立って我が家の2階へ勉強のためと称して家族のように出入りしていた」という。

それは、1年から2年生にかけてで、「私はやんちゃだから、いろいろ遊んだが、千一良くんはなんかどこか悪いのか元気が無い時もあったな。そうこうしている間に、わしが一足先に入営することになり友人15、6名で魚町の料亭でお祝いをしてくれた。その時の写真に千一良くんも一緒に写っているが、目が見えないのでアルバムを探してあんたに見せることも出来んですまんのう」。当時、豊橋は軍都でもあり、まだ、終戦までには間があったので、料亭も何軒もあり、芸者も100人くらいは居たと。

「わたしは台湾で終戦を迎え引き揚げて来たが、帰ってから聞くと千ちゃんがシベリアで戦死したとのこと。本当に残念だったよ」。若き日のことを生き生きと鮮明に語って頂けたのが本当に印象的であった。「100歳まで生きて下さい」と励ましたら「わしは死なん！」と意気軒昂であった。

「お写真を一緒に撮らせてください」とお願

いしたら、「わしは若い時から眼鏡をかけているので写真を撮るなら眼鏡をかけなきゃ」と手探りで近くにある小引き出しの中から眼鏡を取り出してかけ居住まいを正されてから写真を撮らせて頂いた。

それから時は移り終戦・戦後へ突入する。先の大戦で300万人以上の日本人が死んだ。戦争は人を殺傷することを正当化する異常事態である。

非戦闘市民を無差別都市爆撃や特に広島・長崎の原爆による殺戮は未来永劫許されるべきではない。命令を下した指導者、実際の実行者の氏名ははっきりと分かっているのに、戦勝国は罰せられず、敗戦国は戦勝国により裁かれる。正に「勝てば官軍」である。

昨年放映されたNHKの朝ドラ「おひさま」の時代背景が戦争末期から戦後のことを改めて視聴者に問いかけている。当時の青年たちはドラマのようにお国のため、家族を守るために出征して行ったのであろうか。

石原慎太郎・東京都知事や藤原正彦氏、田母神元航空幕僚長、いずれも政治家、人気作家であり、タレント化したようにも見受けられるが、「憲法を改正し、軍隊を保持し、核軍備もすべし、国力が以前より弱りつつあるアメリカの核の傘はいざと言う時頼りにならない。巨大化する中国、無法者の北朝鮮に対抗するべく外交交渉上のパワーを持たないと日本は弱体化する」とのタカ派強硬論者たちである。

日本に強力なリーダーシップを備えた指導者の出現が望まれて久しいが、一国の首相たる者、他力本願ではなく物心両方共に平和で豊かな国家の建設に生命を賭して邁進して欲しいものである。

いずれにせよ、あの終戦後の疲弊した日本が今日の姿に復興し、特に広島・長崎が幾多の試練を乗り越えて現在のような美しい都市になったのは、日本人の勤勉さと知恵と思いやりと強力なエ

エネルギーがあったからに他ならない。

自然災害王国日本ではあるが、関東大震災、阪神・淡路大震災から見事立ち直った。今回の東日本大震災、福島原発事故からの復興も遠い将来のことではないと考えたい。

【資料その3】

死亡告知書

陸軍軍曹 鈴木 千一良

右の者、昭和20年12月15日、ソ領「チタ」洲、「ブカチャチャ」第23収容所において戦病死せられましたから御通知申し上げます。

昭和22年7月20日

愛知県知事 青柳 秀夫

長兄・千一良は満州（現在の中国東北部）で病気に罹り、シベリアの収容所に入れられ、極度の栄養失調、適切な医療を受けられなかったことが想像に難くない。

数年前に厚労省引き揚げ援護局経由、ソ連から死亡者の診断カルテのマイクロフィルムが提供されたとして写しが送られてきたが、前述の告知書と死亡日が異なり、内容の信憑性は疑ってかかる他ない。

シベリア抑留者の悲惨な状況は山崎豊子著『不毛地帯』（近年テレビドラマ化された）や、井上ひさしの『一週間』その他の書物を読めば歴然である。

日本へ帰還後、伊藤忠の専務になった、かの瀬島龍三元参謀は欧州へ出張する際に、シベリア上空を飛ぶモスクワ経由の航空機には決して乗らなかったと聞く。シベリアで斃れた将兵たちに足を向けることは出来ないとの理由からである。

【資料その4】

昭和22年9月11日

豊橋市長 大竹 藤知氏から「英霊伝達式を施行の上、家郷へご帰還致されることに成りました」との通知が着ている。

施行日は 昭和22年9月26日10時30分。

場所 花田町 英霊殿 とある。

注目すべきは、メモに「ご遺骨は関係部隊長の通報によりますとご帰還の望みが少なくありますので謹んで霊壘を謹製しご遺骨にかえて伝達させていただきます」とある。

この度の東日本大震災身元不明者の遺骨を預かる普門寺の住職の言葉「人はただ亡くなるのではない。この世に何かを残していく、その一つが遺骨である」。遺族とすればせめて遺骨か遺品をと考えるのは東日本大震災・津波による行方不明者のご家族の必死に捜し求める切なる思いと重なる。

【資料その5】

静岡県小笠郡大坂村

山崎 恒平 様 よりの手紙（切手1円20銭貼付、22. 5. 29 消印）

鈴木 耕一 （小生の父）宛

拝復

先日は突然ご厄介に上がりまして本当に失礼仕りました。

初めて御目に掛かった筈なのになんとなく昔からお心安くして頂いているお宅の様な気が致し、あんな不躰な事ばかり申し上げ誠に心苦しく存じております。

でも、千一良君の御霊も今は懐かしいご両親様の膝下に帰り、御成長された弟君妹君様の御仲間入り出来てさだめし御満足なされた事で御座いましょう。

そんな（ふうに）考えておると山崎もなんとなく心が晴れてくる様な気が致します。

そして遠い大陸で共に活躍した頃を偲びつつ、又時には千一良君の御霊に語りつつこの頃を過ごして居ります。

もう、ご葬儀を待つのみです。

くどくどしく書き列べ失礼仕りましたが、皆様

毎日御多忙の事で御座いませう。

先日はあんなに結構な品を頂戴仕り有難う御座いました。

母から宜敷く申し上げてくれる様、くれぐれも言い分かりました。重ねて御礼申し上げます。

敬具

(昭和 22 年) 5 月 28 日

御両 (親) 様

【資料その 6】

弔辞

謹みて戦友故鈴木千一良君の英霊に告ぐ

君は昭和 17 年正月北支部隊要員として、中部第 64 部隊に入営し、余と同班たり、高邁なる君は忽ち班の衆望を集む。余、亦君と相識の仲となり友情は日に厚し旬日を経ずして大陸に渡る。かの軍用船上に於いて、消え行く祖国を振り返りつつ、

共に将来を頼み堅き誓いを交じわしたるを忘れじ。益都教育中君は幹部候補生に選ばれたるも病を以って辞退す。然れ共、君が才能は教官に認められ教育修了後、即時本部政務係助手に抜擢さる。

爾来君の俊敏は部隊にうたわれ、亦中国人をも感嘆せしむ。

彼の 18 年山東に於ける将直系軍を殲滅せしめたるは、実に君の的確なる情報に基づく作戦に依れりと謂ひて過言なし。

河北省涿懸移駐後の生活は実に多忙を極め、軍の機密事務に携はりたる君に、余はローソクの燈の下に案を練り、相互に励まし合い、明日の成果を画きつつ、ペンを握りたるまま明かしたる夜の幾度なりしぞ。

その努力も報ひられずして終戦となる。君と奉天郊外に於いて共に口惜涙に暮れたるを君も忘れじ。

其の頃より君の病状を君は語りたり。然れ共、ソ領に引かれ行く身の詮方なし。個人衛生に努めつつ抑留地チタ区ブカチャ市に到る。到着するや、即時中央病院に入院。一意療養に呻吟す。

異国の地、独り病床に横たわりたる日の如何に長く如何に淋しかりしらん。

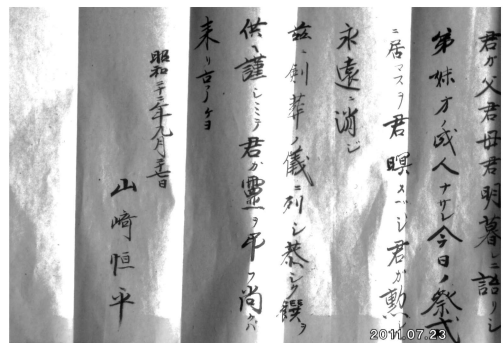
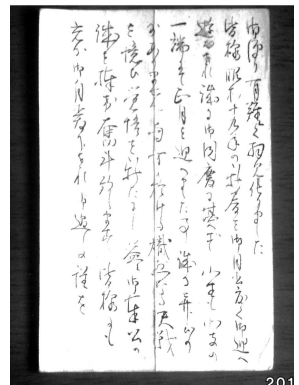
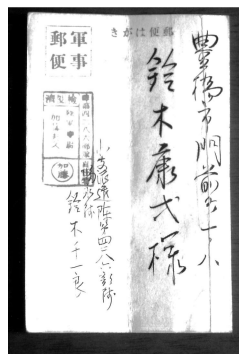
ああ哀しき哉 現身の君に別離の日は来たりぬ。12 月 18 日、君が亡骸は白雪の下に埋もれ、靈魂は祖国に帰り行けり。今年 3 月余ソ領を去るに当り君が墓前に野草を捧げ永き別れを告げぬ。然れ共、君悦ぶべし、君が父君、母君、明暮れに語りし弟妹方の成人なされ今日の祭式に居りますを君瞑すべし。君が勲^{ほま}れは永遠に消えじ。

茲に劍葬の儀に列し恭しく饌^{せん}を供へ謹しみて君が霊を弔^{たつと}ふ尚^うくば来り亨^うけよ。

昭和 22 年 9 月 27 日

山崎 恒平

兄千一良の葬儀での戦友、山崎 恒平氏の弔辞で締めくくり、幻の兄を茲に改めて偲ぶこととしたい。3 年程前に墓参団の募集があった際に仕事の関係で、参加を断念したこともあり、願わくは大学で学んだものの殆んど忘れかけているロシア語を駆使して?いつの日か、現ロシア、ザバイカリヤ地区の墓所を訪れ供物とお花を添えて戦後 66 年になる鈴木家と日本の来し方行く末を語り掛けたい。



写真左上は、北支派遣の兄から届いた軍事郵便
右上はその文面。写真下は山崎恒平氏の弔辞

会員便り・乗り越える力



歌と私 ～「歌の力」に勇気づけられて～

藤巻 篤子（時習 14）



今から 30 数年前だったでしょうか、新潟市から富山市へ移り、ふじまき眼科クリニックを開業しました。そのころから、歌の活動が増えてきました。

当時の日常生活は、午前9時より診療を始め、午後6時過ぎに診療を終えるやいなや、台所へ駆け込み、夕食の支度をし、雑用をすますと大体午後9時を過ぎてしまいます。その後からが、自分の時間でした。歌の練習の時間にもなりました。それも毎日練習出来るはずもなく、歌う時期が近づいてくると、切羽詰まって練習する…。それが私です。「歌が好きですか」と聞かれても、自分でもどう答えたらよいか分からなくなっていました。

でも『時習館かんさい』に寄稿するにあたり、いろいろ考えてみました。そして、あらためて気づいたことがあります。私にとっての歌は「好き」とか「嫌い」とか考える存在ではなく、私の分身…いえ、空気のような存在になっていたのだということを。

今でこそ、分身とか空気のような存在と言えるのですが、実は、小さいこりより、私は声が低い、悪いというのが一番の劣等感でした。音楽の歌のテストが無くなればよいと何度思ったことでしょう。音楽の授業は好きでしたが、人前で歌を歌うのが一番嫌なことでした

○歌との出会い

それなのに、こんなに歌うことになったのは、青陵中学校3年生の時、NHK合唱コンクールに伴奏者として出場したことがきっかけです。

時習館高校へ入学したとき、コンクールの楽しい思い出に背中を押され、合唱部へ入りました。そして、故内藤貴美子先生に、時には厳しく、時には…やはり厳しく、発声の基礎や腹式呼吸法などを教えていただきました。その経験が、私の歌の世界の土台を作ってくれたと思います。

振り返ってみますと、「歌」は、小学生のころから好きだったようです。中でも美空ひばりが大好きで、彼女の映画はほとんど見ていました。主題歌はもちろんすぐ覚え、ことあるごとに口ずさんでいました。

その他、織井茂子の“君の名は”、“黒百合は恋の花”、大津美子の“ここに幸あり”“東京アンナ”なども、ひとり小声で歌い、悦に入っていたものです。今にして思えば、歌詞の意味も分からないまま、よく歌っていたと、我がことながら驚いています。それも、こんにちへの道しるべだったと思います。

○1人で歌い出した理由

新潟大学へ入学してすぐ、テニス部に入りました。そして、歌は苦手のはずの私が、また何故か、合唱部にも入ったのです。でもテニスの方に夢中になり、合唱部はよくサボっていました。発表会などで、どうしても出なければならぬときは、もちろん口パクです。間違った音を出すと、皆に迷惑をかけてしまいますから。

そんな中、19歳で婚約、20歳で結婚という、今にして思えば大変な経験をしました。そして、21歳、23歳、24歳、26歳で、4人の娘を産んだのです。そんなこんなで、2児を抱えながらの卒

業でした。

その後、テニスは続けていたものの、合唱のような団体行動は無理でした。そんな折、越路吹雪の“ろくでなし”を耳にしました。「こんなジャンルがあるんだ！」と思った途端、雑多な日常からもう抜け出たような気分でした。

これからは自分一人で歌えるものもいい、と、聴くのも、シャンソン、カンツオーネなどが多くなっていきました。

○人前で歌うようになったきっかけ

昭和 43 年に医学部を卒業し、新潟大学の眼科で研修を始めました。昭和 51 年に、新潟大学で「第一回北日本眼科学会」が開催され、その学会の懇親会が佐渡汽船上で催されました。



昭和 51 年
初めて人前で歌う

教授から「その懇親会の司会をし、ついでに、歌を歌いなさい」と命じられ、プロのバンドを呼ぶにはお金がないということで、医学部の学生さんのバンドで歌いました。これが、私が人前で初めて歌った経緯です。このことで全国の眼科の先生方に名前を知っていただきました。

そしてこの事が富山市へ移った時に大いに役立ってくれました。富山市の医師会の会に参加した時、眼科の先生方から「貴女の歌を聴きましたよ」と言っていただき、他の科の先生方にも紹介して

いただきました。それから 20 数年ほど、富山市医師会の忘年会で歌わせていただいています。



富山市医師会の忘年会
20 数年間ほど歌い続けています

○それからの音楽活動

プロでもない私ですが、医学部の軽音楽部と出会ったお蔭で、医学部の講堂で録音した LP ができました。

LP のジャケット



さて私の歌っている曲は

その後、続けて2枚のLPを作りました。
さらに学生さんとのジョイントコンサート
を行い、富山市でも2度のコンサート。
その後は2枚のCDを作りました。



昭和51年、新潟県民会館
学生さんとの
ジョイントコンサート



1997年4月13日
富山市オーバードホール
“アイバンク支援コンサート”

CDのジャケット



宇宙に飛び出しそ
うな気分でした

CDのジャケット



心は今も少女のままです

時習館同窓会関西支部では2003年に、また、
昨年(2011年)と、2回歌わせていただきました。

そして、昨年で20回目になる、クリスマス
パーティーでの歌の会。また、最近の予定では今年の
3月25日には「新潟大学眼科教授の定年祝賀会
で歌ってください」と声をかけていただいています。

どうしてこんないろんな事ができたか分かり
ません。でも全て、さまざまな出会いの場で知り
合った方々が、惜しめない応援をして下さったり、
支えて下さったりしたお蔭です。

皆様、本当にありがとうございます。7年前、
ひとり天国へ旅立った主人も、皆様お一人お一人
に、頭を下げていることと思います。

○「歌の力」の凄さに驚き

東日本大震災のあった今年、私は「歌の力」と
いうものに、心から感銘を受けました。震災から
間もないころでも、あちらこちらに有名な歌手の
方が応援に駆け付け、避難所や仮設住宅の広場で
歌っていました。聴いた人は皆涙し、喜んでい
ました。被災者の方々が勇気づけられているのを
目の当たりにして、あらためて、歌の持つ力の凄
さに驚かされました。

今まで私も知らないうちに、歌に元気づけられ、
勇気をもっていたのでしょう。人前では笑って

いましたけれど、私にも大変な時、苦しい時が、いっぱいありましたから。だから、歌を歌って来たのではないかと、今、つくづく思います。

○私の歌

「歌わせて頂いて有難うございます」、との感謝の思いで一杯で、いつも歌っています。

「うまい歌ではなく、いい歌を唄いたい、人の心に沁みわたる歌を歌いたい」というのが、私のモットーです。

この思いを今後も忘れないで、前向きな姿勢を崩さずに、“人”にも“診療”にも優しい気持ちを持ち続けていくつもりです。

そして、こんな私の歌でも「元気をもらった」「感動して泣けた」と言って下さる方が、わずかですが、いらっしゃいます。その方々と励まし合い、一緒に涙し、元気をもらい、歌っていただけらと思っています。そして皆で歌って笑って、震災や少子高齢化で暗くなりつつある日本が、なんとか明るい日本になるように願ってやみません。

私の一枚！

毎年主人の命日、10月8日に娘4人と孫9人(中3～2歳7カ月)が集まり、集合写真を撮っています。たかが1枚の写真“ハイチーズ”と数分で終わるはずが、これが大変な作業。この大騒ぎが私にとって最高の癒しの時です



ATUKB13(娘4人と孫9人)です？ アツケビー13と呼んでください

会員便り・乗り越える力



薬の知識と健康管理 ～飲み合わせには注意を！～



岡田 順子（時習 20）

○同窓会デビュー

同窓会に出るきっかけとなったのは、伊藤忠男氏と私の主人が仕事の上で付き合いがあり、雑談の中で、伊藤氏と私の弟が同じ高校、大学であることが判明。そこで、主人が「家内も時習館卒なんですよ。同窓会に呼んでやって下さい」と言ったのが始まりでした。主人からその話を聞いたときは余計なおせっかいをしてくれろと思いましたが、昨年総会に参加し、皆さんが楽しく、生き生きしている姿をみて、出席して良かったと思いました。

○研究者志望から薬剤師へ

私は大学で薬品合成化学を専攻しました。

テトロドキシンの全合成、ホタルイカの発光物質ルシフェリン関係など毎日深夜まで研究し、世間とは隔絶空間に身を置いた時期がありました。この研究については、3年前に圀先生が時習館で講演した際にも話されたと思います。

その後、研究生生活を辞めた私は、病院実習の経験がなく、いきなり地元の成田病院に就職したのですが、カプセルも錠剤も区別がつかず、薬理が苦手な私には、この薬がどのような効果または副作用が出るのか、さっぱりわかりませんでした。でも幸いに、昔はこの程度でも勤まりました。なぜなら現在のように服薬指導なるものが存在していないので、患者さんに薬の説明をしないし、患者さんも薬剤師に質問することも無かったからです。

迅速に正確に薬を調剤することのみが求められた時代だったのです。

今思えば、C型薬害肝炎・サリドマイド児等は

薬を投与する際、患者さんに副作用情報を知らせる態勢が出来ていれば、被害をもっと減らせることができたでしょう。

○医薬品・OTC・サプリメントの飲み合わせ

若いころは薬を飲む機会がほとんどなく、年に2～3回程度、風邪薬などを服用するぐらいでした。年を取るにつれて、新車が中古車になるように、あちこち傷んで、薬を飲む機会が多くなってきます。また昨今、健康志向の高まりで、セルフメディケーションとしてサプリメントの服用も多くなってきました。サプリメントの服用時、自分の健康状態をよく知り、飲み合わせには十分注意してください。

例えば

- ・緑内障・前立腺肥大症の薬を投与されている人が風邪薬、抗アレルギー薬を併用すると元々の病気を悪化させる恐れがあります。
- ・抗アレルギー薬のアレグラ錠はグレープフルーツ、オレンジジュース、アップルジュースと一緒に飲むと薬の効果が減弱します。
- ・Ca拮抗剤の降圧薬や狭心症治療薬もグレープフルーツ、ザボン、ボンタン、夏みかんと併用すると薬の効果が増強し、血圧が下がり過ぎることがあります。
- ・心血管系の病気で心筋梗塞や肺塞栓の予防に服用するワーファリン錠は納豆と併用すると薬の効果が減弱し、血管が詰まりやすくなります。レイシ、ひまわりの種、ウコン、甘草、ビタミンE含有飲料と併用すると薬の効果が増強し、出血傾向が高くなります。
- ・今話題の漢方薬には、ほとんど生薬の甘草が入っています。複数の漢方を飲むと、甘草の過剰投

与で、血清カリウム値が低下し浮腫が起きるので注意が必要です。こむら返りや胃けいれんに良く効く芍薬甘草湯は甘草が多く含まれているので、特に注意が必要です。

・最近テレビで宣伝しているサプリメント飲料ですが、Na、K、Ca、などが入っているようなので、高血圧、腎機能が低下している方は病状悪化を招くことがあります。サプリメント飲料を服用する前には主治医に相談することをお勧めします。

お薬について簡単に説明させていただきましたが、これはほんの一部です。書き切れないほど併用禁忌及び注意がたくさんあります。

自分でかかりつけの調剤薬局を決め、自分の薬に関する疑問は何でも相談することが、飲み合わせによる薬害を防止する一番の対策だと思います。

○他人ごとでない認知症

私たち団塊世代に今後増加する症状、それは認知症です。当院も物忘れ外来がありますが、いつも他人ごとではないと思いつつ日々仕事をしています。

アルツハイマー型認知症の薬に、アリセプト錠、レミニール錠、メマリー錠、リバスタッチパッチ添付剤の4種類があります。時習館関西支部で親交を深めておられる方たちには、認知症の心配は無用だと思いますが、「ツムラ No54 抑肝散が認知機能改善、抗不安作用、高齢者の攻撃性の改善に効果的である」と学会で発表されました。「最近、怒りっぽくなった？ 物忘れが出てきた？」という方は、早めにお試しくださると良いかもしれません。

○服薬指導に関して

先に触れました服薬指導について、まだ世の中に業務として定着していない今から 20 年ほど前、とても面白いエピソードがありました。

外来患者さんにお薬を渡すため、薬局窓口で薬

の作用と注意事項を説明し始めたときのことでした。

一人の婦人に薬剤師が「今日は、何で来られましたか？」と聞いたところ、「バスで来ました」との返事。薬剤師は、もちろん、今日どのような症状で病院に受診したのか聞きたかったのですが、患者さんは交通手段と思って答えてしまいました。薬剤師は症状によって、熱を下げるか？ 化膿止めか？ のどちらで説明しようかと思って、問い合わせた結果の出来事でした。

薬の説明を受けるのが当たり前になっている最近では、こんなこと起こらないと思います。

現在、私は枚方のある病院で薬剤部長として勤務しているため、最近では会議ばかりが多くて、現場の仕事はほとんどしていません。

過去の経験から言えることは「入院した患者さんは、自分の体の中に入る薬にもう少し、関心を持って欲しい」という点。「確かに、薬は治療するために使用するのですが、リスクもある」ということを知って欲しいのです。

それと同時に、わからないことはどしどし薬剤師に尋ねてください。副作用については医師より敏感なこともあります。私たち薬剤師は患者さんと医師との間に入って、よりよい治療ができるよう日々精進していますので、もっともっと活用していただくようお願いいたします。



胸部外科医と薬剤のことで話し合っている私 少し陰しい顔になっていて、私自身驚いています

会員便り・乗りこえる力



感謝を込めて 息子と仕事ができる喜び



横井 愛子（時習 21）

はじめに阪神・淡路大震災の折には、関西支部よりお見舞いをいただきました。

この紙面をお借りし、あらためてお礼申し上げます。

本当にありがとうございました。

○（株）諸国美味を起業

震災から17年、どなたにも変化のあった月日ではないでしょうか？

私にとっても大きな変化がありました。

（株）諸国美味の起業です。

ご縁をいただき、日本の伝統食品〔乾物・菓子・調味料〕をデパートに卸す業を始めました。

今まで、デパートは買い物をする場所でしたが、買っていただく場所になりました。

声は枯れ、足は攣り…なんと時間がたつのが遅いこと。

造り酒屋に生まれた私なのですが、お客様に買っていただくことの難しさには参りました。

○長男（伸仁）の発案で「美噌元」が誕生

その後、長男伸仁が参画、彼の発想で味噌汁専門店「美噌元」が生まれました。

「医者にお金を払うならば味噌屋に払え（江戸時代）」という言葉がありました。息子の発想には、味噌が長寿国日本を支えてきたとの思いがあったようです。滋養に富んだ味噌は日本を代表する食品、味噌こそ日本人の「力」の源です。

味噌の歴史は縄文時代にさかのぼり、いわゆるどんぐりで作った「縄文味噌」と呼ばれているものがありました。

中国大陸との交流により麴を入れた発酵食品が味噌の源です。（発酵食品…健康食品の王様ですが、昔ながらの味噌はその代表です）

飛鳥時代に大豆の発酵技術が伝播し、大仏建造に携わった労働者の食料となりました。

平安、鎌倉、室町を経て現代の味噌料理の基礎が整ったと言われています。

江戸時代人口100万人の江戸の台所を支えるため三河や仙台から味噌が舟で運ばれました。

ちなみに、「美噌元」前身の井筒屋は江戸時代にさかのぼります。蜂須賀藩（現在の徳島県）のお抱えの廻船問屋として活躍しておりました。

気候風土の違いによりそれぞれの土地柄、独特の風味、香りの味噌が出来ました。

- ・寒冷地・仙台では塩分濃度の濃い味噌
- ・色淡く辛みその代表・信州味噌
- ・大豆で作った三河赤だし
- ・甘口京都白味噌
- ・麦で作った九州麦味噌

幼いころ食べた味噌汁こそソウルフードです。



たっぷりの具の入った味噌汁の湯気の向こうに笑顔が浮かびます。活気がみなぎります。

戦後、ハンバーグ、カレーライスなど洋食の普及で味噌の消費量は年々減少傾向にあります。

とても、もったいないことです。

「力」を授ける miso soup を世界中に広めたい。私と息子の夢です。

忙しく働く女性や一人暮らしの方が手軽に味噌汁を召し上がっていただけるように、お湯を注ぐだけで美味しい味噌汁になるハンディタイプも作りました。



○合わせ味噌

ちょっと手前味噌になりますが、私どもの手がけている味噌の美味しさは合わせ味噌にあります。

信州味噌をベースに。

- ・讃岐白味噌を合わせた「まるやか」
- ・木ダル寝かせの三河八丁を合わせた「すっきり」
- ・愛媛裸麦を合わせた「ゆったり」

ネーミングは召し上がったときの空気を表現しています。

地方の異なる蔵の味噌をブレンドする発想は古くから味噌に携わってきた者には出来ないと褒めていただきました。うれしいことでした。

これも、息子の発想が生かされたものです。



ちなみに、美噌元のカタログ写真はカフェオレ・ボールです。

世界中に miso soup を…私たちの夢は大きく膨らみます。

○皆さんに感謝

来年には起業 10 年を迎えます。

商家に育ち、「お客様（飲んでいただく方）の身になって考えること」と常々聞かされて育ってきました。

先人の智慧、古くからの商法に、若い人の行動力あふれた柔軟な考えを足し算すると、一層奥の深いものが生まれる、と痛感しています。

たくさんの皆様に応援していただきました。

時習館の皆様、故郷の皆様、関西の皆様、大勢の皆様のお陰で今日があります。

感謝で一杯です。

まだまだヒヨコの私たちです。末永くお導きくださいますよう、よろしく願い申し上げます。

最近、釣りに興じる余裕も出てきました。「忙しいときほど、遊びが大切だよ」と息子も喜んでくれ、時折、和歌山や四国の海に出かけます。

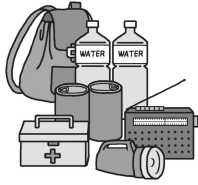
太平洋を見ていると、豊橋にも外国にもつながった大きな夢が見えます。

これも、仕事に打ち込める「力」の一つかも知れません。

平成二十三年十月爽やかな秋空のもと、愛媛の海でこの鯛を釣り上げました。同じ日重さ七kg、体長八十cm以上の大物ハマチいやブリも釣り上げ、私は得意満面
深い海から突然ぴくぴくと手に伝わる感触、魚君との死闘、見えない深い海の中で繰り広げた壮絶なドラマでした



会員便り・乗り越える力



阪神・淡路大震災の翌日の衝撃

宮崎 裕二（時習 24）



阪神・淡路大震災当日は、とにかく寒かったですね。自宅の敷地が大きく動き、住むのに不安を感じたのと、ライフラインが全て止まったため、当日は小学校の体育館に避難しました。座る場所もないぐらい満員で、寒いこともあって、結局近くの妻の実家のマンションに戻りました（実家は電気、水道がすぐ復旧していました）。

○阪急西宮北口駅を目指して

翌日は、仕事が心配になり、何としてでも大阪の事務所へ行かなければならないと覚悟を決めました。自宅前のがけ崩れには目をつむり、ガリガリという耳障りな音を聞きながら強引に自動車を出しました。阪急電車神戸線が動いているようだということで西宮北口駅を目指すことにしました。

○現実とは思えない世界

広い道に出るまでの狭い道では、ひび割れた地中からゆらゆらと青白いガスが出ていて、これが車に引火しないかとひやひやでした。見慣れた近所の家々の多くがペしゃんこになったり、斜めに傾いているのを見ても映画のシーンのようで、現実とはとても思えませんでした。ようやく広い道に出ても、電柱が倒れて道を塞いでいるので大回りしました。



電柱が倒れ道を塞いでいた

しばらく行くと 171 号線の大きな高架橋が落ちていました。今思い出そうとしても、どうやって西宮北口の近くまで辿りつけたのか分かりません。

○淀川を渡ったら天と地の違い

道路上に極力邪魔にならないよう車を乗り捨て、夫婦と娘 3 人（当時は小学生 2 人と保育所 1 人でした）の家族 5 名でトボトボと西宮北口まで歩いて行きました。阪急電車が動いているのを見てホッとしました。

阪急電車が動き出して武庫川を渡り尼崎市に入っても、震災の爪痕は所々見受けられました。ところが、淀川を渡った途端に、町並みは震災以前とまったく変わっていないことに、私は大変な衝撃を受けました。私たち家族だけでなく、被災者は誰もが着の身着のままの薄汚れた格好で、やっとの思いで梅田駅に辿りついたのです。しかし、大阪の人たちは普段とまったく変わらない様子でした。被災者とそうでない人との落差はこんなにもあるのかと思った次第です。

○震災から立ち直る日を

あれから 17 年が経過し、ほぼ同じ道を何事もなく日々歩いています。東日本大震災に遭われた被災者の方々に対して、何とお声をかけたらよいのか言葉も見つかりません。

私の頭をよぎるのはあの震災翌日の衝撃です。本当に何が起こったのか、一体どうになってしまうのかという不安と恐怖です。そこから立ち直るのに、相当の年月を要しました。

東北の皆様方がいつの日か必ずや震災後の衝撃から立ち直り、平穏な日常生活を取り戻されることができますよう、心からお祈り申し上げます。

会員便り・乗り越える力

手術的交響楽

松井 誠一郎 (時習 27)



私は整形外科医として、頭と内臓以外ほぼ体中の手術をしてきましたが、手術と音楽演奏は、時間軸に沿った神経の緊張の起伏や、起承転結といったストーリー性において非常によく似ていると思います。ですから、毎日のように手術をしていた頃は、趣味のヴァイオリンを弾くのがいやでした。

手術のなかでも脊椎の手術は、4 楽章形式の交響曲に例えられます。今回は腰部脊柱管狭窄症の手術を、ベートーベンの第1交響曲にたとえてみました。腰部脊柱管狭窄症というのは、腰のところで神経の通り道が狭くなる病気で、下肢がしびれたり、長く歩けなくなったりします。有名などころでは、5 年ほど前にみのもんたが手術を受けています。

手術前の手洗いの時間は、舞台そでで出番を待つ演奏者の気分。そして、ステージ (手術室) へ！

○ 第一楽章 Adagio molto — Allegro con brio

メスを入れる瞬間、それは指揮者の一振り。でも第1交響曲の冒頭の和音は優しい、そう、出血は大したことは無いのです。それでも皮膚を切開してゆくとあちこちから血が滲んでゆきますが、そこは Adagio molto！ 急がず丁寧に止血をしてゆきます。— 皮膚切開が終わると、棘突起という骨の部分に到達します。それは、恐竜の背びれと同じ形をした骨です。この棘突起から筋肉をはがしてゆくと、第一楽章が終了します。

○ 第二楽章 Andante cantabile con moto

歌うようにゆっくりと、そして生き生きと。第2楽章では、いよいよ骨を削り、神経の圧迫を取り除いてゆくわけですが、焦りは禁物。慎重にや

らないと、神経を傷つけてしまいます。「失敗したら元にもどることはできない。」そんなところも、神経を扱う手術と音楽は似ています。

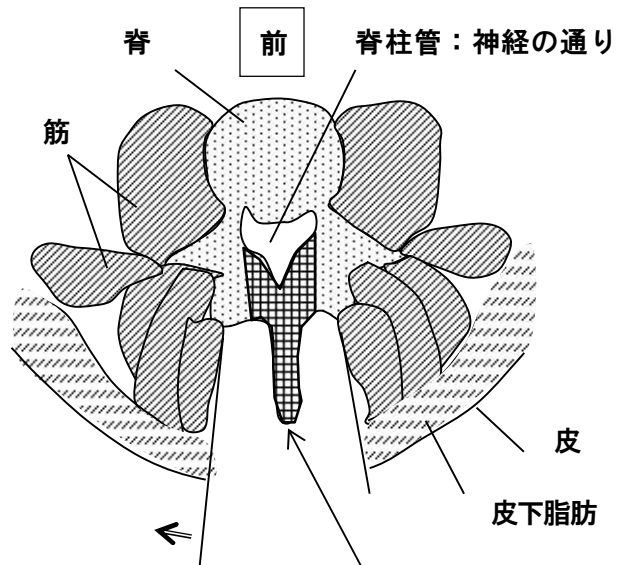
○ 第三楽章 Allegro molt e vivace & trio

これはメヌエットですから、最後まで演奏したらまた最初に戻って繰り返します。他に神経が圧迫されているところは無いか、ガーゼは残っていないか、そんなことを繰り返してチェックするわけです。

○ 第四楽章 Allegro — Allegro molto e vivace

最後は創閉鎖、でもそれで終わりではないのです。術後のドレーンから出血は無いか、麻酔から覚めてちゃんと足は動くか。この終楽章にドラマが繰り広げられるのです。そして最後は、高らかな喜びに満ちた和音で締めくくられる。手術は成功！

アンコール？ 手術にそんなの要りません。



第1楽章では、皮膚・筋肉をここまで上げます。

第2楽章では、この骨を削って神経の通り道を広げます。

会員便り・乗り越える力



女性の社会進出

藤井 順子（時習 28）



社会へ出て約 34 年間、仕事を続けて今日まで来ました。仕事に打ち込んできたこの年月の中で、「女性の社会進出について…私が壁を感じたり、仕事を続ける難しさを感じたことがあったのだろうか？」 普段は全く問いかけないこのこと、この原稿を依頼されたのを契機に、思い起こす良い機会になればとペンを執ってみました。まず、自身の仕事や生活を振り返りながらヒントを探すことにします。

○幼いころからの祖母の教え

そもそも、私は幼いころ、「社会へ出て働くことが当然であり、一人でも生きていけるように仕事をもちなさい」と、明治生まれの祖母に教えられました。そのため仕事をもち社会へ出ることは、女性である私でも生きる上で自然の流れであったと認識していました。どんなに苦しくても、どんなに辛くても、それは「人」として当然のこと、女性だからという意識で物ごとを見たことがなかったのです。その考えは今でも変わりません。

○関西で仕事人として成長

短大卒業後、グラフィックデザインの世界を目指していた私は、東京の広告代理店に勤務しました。そう言えば当時、まだまだ女性が活躍できる世界ではありませんでしたね。

私は「色彩」の仕事につく夢を捨てられず、テキスタイルデザインの専門学校へ入り、布地の柄のデザインという他の道を目指すことにしました。

専門学校卒業後は、テキスタイルデザイナーとして東京で暮らしてきていたのですが、約 28 年前、幼なじみのいる大阪へ遊びに来た時、たまたま、

偶然から芦屋でイベントプロデュース会社をしている社長と出会ったのです。その社長から「イベントは、そこに集まるお客様の大半が女性であるにもかかわらず、制作側にはまだ女性が少ない。女性のディレクターがこれからの時代は必ず必要になるから」とその会社に誘われました。やはり、心の底には「女性がなぜ少ないのかな。それなら自分がパイオニアになってみようか」との気持ちがあったのかも知れません。思い切って全く考えてもみなかった世界へ飛び込んだのです。

その後の 17 年間、イベントの制作から行政の事業広報の仕事の続けました。もちろん、クライアントも仕事関係もほとんどが男性という職場でした。この 17 年間は、未熟であった私が鍛えられ続けた厳しい社会でした。

女性であることによる差別ではなく（気付かなかったかもしれませんが…）プロとしての責任が求められ、鍛えられました。

20 歳代後半から、男性ばかりの現場で、業界のノウハウを全く知らない私が、いきなりディレクターとして現場を仕切る仕事につくことになったのです。

現場での私の指示は無視され、本来私の指示で動いてもらわなくてはならない方々に、全く届いていなかったことなど、何度も痛い思いをさせられました。

その上、東京から来たばかりの私は、「関東弁！」。今だからこそわかりますが、現場での私は全くのよそ者。仕事人として受け入れられる以前の問題だったのかも知れません。

30 歳代の私の生活は、寝る時間以外完全に仕事漬け、といった状況に近い日々でした。

今から考えると、この時の経験があったからこそ今がある気がしています。

○そして独立、新たな世界へ

今から11年前に会社を設立。再び、それまでの業種とは全く違う世界に飛び込みました。

お客様への「接客」と、講師として「接客を教える」という仕事。そして私の本来の夢「カラーコーディネーター」の仕事です。イベントの業界から、それまで共に仕事をしてきた仲間との新たな出発でした。

この11年間は、それまでの17年間とは全く逆で、お客様は女性、共に仕事をする仲間も女性といった環境になりました。仕事の内容も、経験と年齢を活かせる職種ではないかと思っています。

起業してからの11年間は、知識と知恵を絞り続けながらも、時折、自分自身の限界を感じ弱気になることもありますが、仕事を共にする仲間とのチャレンジ精神とお客様が喜んでくださる笑顔を「力」にして今日まで来ました。



「接客」の講義風景

現在、私の周りには、第一線で活躍なさっている女性がたくさんいらっしゃいます。社長業の方、司法書士や税理士の方、専門職やサービス業の方など職種は様々ですが、社会と深く関わっていらっしゃいます。また、20歳～30歳代の夢を追い続ける若い女性達もたくさんいます。特に私自身が会社を興してからの11年間に会った方々の中で、「魅力的！仕事ができるな！」と感じたの

は、男性より女性の方が多かったのではないかと感じています。それほど、現在の私の周りは「社会進出をしている」女性に囲まれています。

○子育てしながら安心して働ける環境を

ここで、改めて「女性の社会進出」について考えてみます。職種や社会進出の場については、あくまでも向き不向き、分相応を前提とした上のことですが、女性はどんどん社会へ出てその能力を最大限に生かし、仕事をしていくべきだと考えます。では、仕事を続けたいと望む女性や能力のある女性にはどのような環境が必要なのでしょう？それは「若い女性が子どもを生み育てながら、安心して働ける環境が一番です」。今はまだ、こうした環境が整っているとはいえません。仕事を持つ女性たちは、どうしても、子どもを生み育てることに躊躇しています。

少子化が進み、超高齢化社会がすぐそこまで来ています。これからの日本を誰が支えていくのでしょうか？目の前に迫っている切実な問題です。

○全ての女性が社会人

専業主婦の方々は「女性の社会進出」と関係ないのでしょうか？私は、その男性的視点に問題意識を持っていただきたいと思います。専業主婦の方々は、それぞれの生活環境の中で大きく社会と関わっていると思うのです。そこで働くご主人を支えていらっしゃるのです。

男性と女性は、考え方や視点が大変違う場合が多く見受けられます。男女の違いだけではなく、もちろん、個人による違いととらえるべきかもしれません。いずれにせよ、世の中、基本は男性と女性しかいないのです。互いの良い面を活かし、社会と関わって仕事と生活ができることが理想ではないかと考えます。

残念ながら（私個人はそのように思います）草食系男子が増えています。ただ、男女という性別による分け方ではなく、個性として相手の能力を認めることが、男女共に協力し合え、生きやすい社会になっていくのではないのでしょうか。

会員便り・乗り越える力

「からだを動かすこと」



熊本 和正 (時習 31)



昨年の東日本大震災によりお亡くなりになられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を願っています。

○私は大学体育教員

時習 31 回の熊本和正と申します。昭和 35 年 (1960 年) 生まれの子年です。家族は妻と子ども 2 人の計 4 人です。

私は大学体育教員です。近畿大学経営学部准教授が肩書きです。時習館を卒業後、日本体育大学に進学し、クラブ活動 (水泳) と寮生活の 4 年間を送りました。練習の継続により自己記録を更新することができ、私としては悔いのない学生生活でした。

学部を卒業し大学院 (体育学研究科体力学専攻) に進学しました。所属した身体動作学研究室はスポーツ生理学とスポーツバイオメカニクスを専門領域としていました。修士課程を修了し、昭和 61 年に大阪薬科大学保健体育教室の助手に採用され、4 年間勤務の後、平成 2 年に近畿大学教養部に移り、学内組織改編を経て、平成 22 年度より経営学部所属になっています。

○日々の仕事

主な職務は全学部の教養教育 (健康スポーツ科目) および経営学部在籍するスポーツ学生 (スポーツ推薦入学生) の専門科目等の担当です。職場の専任教員は私を含めて 12 名ですが、それぞれが専門のスポーツ競技歴と研究領域を持って

います。東大阪、奈良および大阪狭山キャンパスの健康スポーツ科目をこの 12 名と他大学からの非常勤講師とで担当しています。



近畿大学通用門：いつも通う道です

教養教育の健康スポーツ科目には「生涯スポーツ」(実技実習) と「健康とスポーツの科学」(理論講義) があります。「生涯スポーツ」は幅広い運動・スポーツ実技の習得を目的とし、「健康とスポーツの科学」は運動・スポーツによる体力づくりについて、生活習慣と健康の関わりを中心に講義をしています。

スポーツ学生の専門科目としては、運動指導者の資格取得にかかわる科目を開講しています。運動指導者の資格とは、(財) 日本体育協会の「公認スポーツ指導者」と (財) 健康体力づくり事業財団の「健康運動実践指導者」の二つです。在学中あるいは卒業後にこれらの資格を取得できるようにカリキュラムを組んでいます。

さらにスポーツ学生の授業科目として、1 年次

の「基礎ゼミ」および3～4年次の「演習」（卒論ゼミ）があります。基礎ゼミは新生を受け入れて大学の環境に適応させることが第一の目的です。教員一人当たり十数名のグループで自校学習や大学での学習指導をしています。演習は必修科目です。近畿大学は平成21年度入学生より全学部で卒業論文作成を全員必修にしています。

○運動・スポーツで生きるエネルギーを

私たち人間にとって「からだを動かすこと」は、生きていく上で非常に重要な意味を持っています。生まれてから成人に到るまでに適度な運動が必要です。人は運動、休養、栄養摂取を繰り返しながら、発育発達を促し、運動能力を獲得し、体力を養います。また、運動・スポーツは人に喜怒哀楽をもたらし、生きるためのエネルギーを与えます。これは成人になっても同様です。

成人してからも運動・スポーツは重要です。私たちは糖分と油脂の多い食品を摂取し肥満する傾向にあります。学生のころのようにトレーニングをして、からだを引き締めたいところですが、生きるためには日々働かねばなりません。摂取する栄養の質と量をコントロールしながら、時間の合間あるいは仕事をしながら少しずつ運動量を積み上げていくことが求められます。すなわち、“一に栄養、二に運動”です。



近畿大学ラクビー部の面々です

○楽観できない日本人の生活習慣

厚労省は日本国民の運動習慣を改善すべく、いろいろな取り組みを実施して来ましたが、成人の運動量にほとんど改善が見られなかったことから、とうとうスローガンを「一に運動、二に食事」と書き換えました。これは厚労省の歴史上、画期的と言われましたが、それだけ私たち日本人の健康状態と生活習慣が決して良くないことを表しています。平均寿命は長いけれど、健康寿命はどうなのか、と言われるところです。

青春の大学生にあまり辛気くさいこと（生活習慣病とか運動習慣とか）を言うとダメだろうなと思いつつ講義をしています。しかしながら、大学生が卒業して社会人になり働き始め、やがて結婚をして子を授かり育てる。その子どもたちが学校に上がり、体育の授業を受ける。このサイクルを考えると、やはり説教臭いことを話してしまいます。若者よ、運動せよ。好きなスポーツに打ち込み、体力を養え。勉強には体力が必要だ。社会人になれば、仕事とは体力だ。



近畿大学の東大阪キャンパスと
生駒・信貴山

大阪で就職し26年。この同窓会関西支部には平成22年度に初めて参加しました。「若手会員」と紹介されましたが、先輩方のエネルギーに圧倒されました。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。

プロジェクトでは、小学生が家を建てます。あるいは田や畑を耕してお米を収穫し、採れた野菜で料理をします。

子どもと大人がいっしょになって話し合い、生きることそのものにかかわる大きな本物の仕事に挑戦する、それがこの学校のプロジェクトでした。

最初は、右も左も分からず驚くことばかりでしたが、5年、10年と子どもたちとともに過ごすうちに、自信をもって言えることもずいぶん増えてきました。「学校は楽しくなければいけない。そして、あれがしたい、これが知りたい、という好奇心こそが子どもたちの成長にとっていちばん大切である」。こんな、当たり前なことの大切さも最近痛切に感じます。これも「きのくに子どもの村」での教師生活を通してもらった大事なもののひとつです。初めてお会いした方に自分の学校を紹介するとき、最近胸を張ってこう言うことにしています。「私の勤めるきのくに子どもの村学園は、日本でいちばん楽しい学校です！」

○「子どもを幸せにする教育」の原点

この学校での18年の教師生活を経て、いま改めて考えさせられるのは、「教育」とは、あるいは「学び」とはいったい何なんだろう、ということです。そして、「教育」や「子ども」について思いを巡らせるとき、やはり私たちを取り巻く世界について考えないではいられません。必ずしも社会全体が楽観的な方向に向かっているとは言い難い現在の世の中です。そんな中でもやはり、次世代を担うのはまさに子どもたちであり「教育」そのものです。しかしながら、今の日本の「教育」は、「子どものための教育」「子どもを幸せにする教育」からますます遠ざかっていっているように思えてしかたありません。

昨年同窓会で、「高校時代が今の自分に大きな影響を与えている」と強く感じたのは、ちょうどそんなことをあれこれ考えている時のことでした。旧友たちとの思い出話に花を咲かせている

うちに、当時のいろいろな記憶がよみがえってきたのです。

私たち38期生の世代が高校時代を過ごした80年代は、ちょうどバブル経済真ただ中でした。受験戦争がもっとも激しくなり、日本中の学校が校内暴力などで荒れていた時期とも重なります。思えばそんな時代の中にありながら、時習の杜では、時代に逆行するほど“自由な気風”が大切に守られていました。当時、先生方は私たち高校生をずいぶん大人として扱ってくださっていました。受験について口うるさく言われた覚えもまったくありません。自立した大人であれ、というメッセージをたくさんいただきながら、校内には穏やかで寛容な空気がいっつも漂っていたことを思い出します。

日本でいちばん自由で楽しい学校での教師生活は、私に「教育」にたずさわるとの喜びを与えてくれました。そして、その喜びの糸を手繰りよせると、間違いなく時習で過ごしたあの幸福な3年間がしっかり現在の自分のルーツにあったことにも気づきます。

これからもますます、子どもたちとの時間を楽しんできのくに子どもの村での教師生活を充実させていきたいと思っています。

— 学校法人きのくに子どもの村学園 —
<http://www.kinokuni.ac.jp>

きのくに子どもの村小中学校・きのくに国際高等専修学校・かつやま子どもの村小中学校・北九州こどもの村小中学校・南アルプス子どもの小学校(2012年4月中学開校予定)・キルクハニティ子どもの村(スコットランド)



2011年8月 修学旅行写真
スコットランド カッスル・ダグラス(Castle Douglas)
ナショナルトラストの庭園「スリープ・ガーデン」にて

会員便り 佐渡情話「人情零れ話」受賞稿



送り主のない贈り物
～新潟県知事賞 & 審査員特別賞～



奥山 真理 (時習 30)

佐渡市市役所が「恋愛零れ話」と「人情零れ話」を募集していました。後者なら伯父を書ける、そう思って応募したところ、『知事賞』と『審査員特別賞』を頂きました。授賞式の前日に佐渡観光をして下さるとのことで、喜んで出席しました。たらい舟・金鉾跡・北前船…。式後の祝賀会には、佐渡出身の「新井満氏」（「千の風について」の日本語版作詞・作曲者）、「常田富士男氏」（日本昔話のナレータ）等も出席され、とても楽しいひと時でした。震災に遭われた方々の、早期復興を祈るばかりです。

「北海道サ来い。おずさん、お金やっから」
親代わりの伯父が電話をくれた。地位も財産もないのに、「潜在性脊椎破裂症」の腰痛で予備校講師職を失った姪の私を、何とか救おうと…。

交通費を工面し飛行機に乗り、札幌空港に到着した。ロビーに出ると、作業着のままの伯父が煤で汚れた封筒を握りしめ、柱の横に立っている。

「ほれ、持ってげ。えっから、もう泣ぐな」
情けなくて、まともに顔を見られなかった。

帰京した翌日、何と元の教え子が、年賀状の住所を頼りにアパートを探して来てくれた。

伯父のお金で問題集を揃え、炬燵を二人で囲んだのが今の塾（奥山学園）の始まりである。

塾が15周年を迎えたある正月。
「伯父を呼んで記念の食事会を開こう！」
と思い電話すると、人前は恥ずかしいので参加は…と言う。
「さすん（写真）送ってくれたら、いいっしょ」
以前私が送った塾の写真を、
「今も毎日見てるっさ、宝物だべ」
と、遠慮がちにつけ加えて。

その伯父が、2週間後に「脳出血」で急死した。
今までのお礼も、恩返しも、八つ当たりした謝罪も、未来永劫かなわない…そう思ったとたん、膝に力が入らなくなった。

葬儀から帰洛した翌朝、宅配便が届けられた。

送り主には伯父の名が、発送日には亡くなる前日が、ひらがなの多い字で記してある。玄関に座り込み、震える手で紐をほどいた。

庭で作ったジャガイモとトウキビ、そして金糸・銀糸と金箔とで扇面が織りなされた丸帯、写真を入れて送り返すための額…。それらが丸めた新聞紙の中から静かに現れた。

何も構わなかった伯父のことだ。あの寒空の下、いつもの作業着のまま街へ出かけ、店の人の視線も気にせず、白内障の目を近づけ遠ざけし、懸命に選んでくれたに違いない。

切ない横糸と、有難い縦糸で、織りなされているようなその帯に、顔を埋めてただただ泣いた。

伯父は今、あの額の中で、受け取るはずの私の写真に並び、直立不動で立っている。

深く愛された思い出が、私の心の支えです。



入選作品の授賞式風景 (05年11月11日)

支部便り

活動報告他



支部便り・活動報告

7月17日



東京の日

関西支部総会・懇親会に出席して
思い出した西宮での生活

東京支部事務局

吉福 ゆかり (時習 26)



東京支部同窓会の事務局窓口を担当している吉福ゆかりです。

昨年6月の太閤園での関西支部総会ではいろいろお世話になり、ありがとうございました。

昨年の初めに、関西支部事務局長の伊藤忠男さんから、関西支部総会の記念講演を、私と同期26回生の鈴木優さんがされるとお聞ききました。ここはぜひ同期生が大勢参加して盛り上げなくては！と思いましたが、関西地区には同期生が少なく、東京の仲間は交通費もかさむためか腰が上がりません。豊橋の親友に声をかけ、本部の役員をしている同期も合わせ、なんとか6名の同期生で鈴木優さんを囲むことができました。当日は、同期生を一つのテーブルに集めていただき、とても楽しいひとときを過ごすことができました。

ラブで夫婦ともにテニスに明け暮れたり、阪神間の生活を満喫していました。海も山も近くて本当に大好きなところですよ。



1989年12月
テニス仲間と甲子園球場でソフトボールをしたときの
写真(夫とのツーショット)です

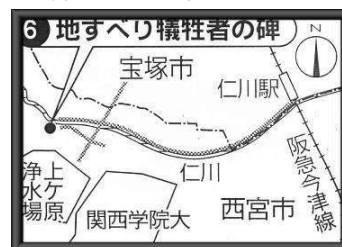


平成23年度関西支部総会にて
太田房江さんと時習26回生

実は、私の新婚生活は、西宮市の武庫川団地で始まりました。夫の勤務地が大阪市内だったので。その後、阪神甲子園駅のすぐ北側に引っ越しましたが、夫の転勤で東京へ転居するまでの11年間、ずっと西宮市に住み、大阪市内へアルバイトに通ったり、休日は甲子園や香櫨園のテニスク

ラブで夫婦ともにテニスに明け暮れたり、阪神間の生活を満喫していました。海も山も近くて本当に大好きなところですよ。

1993年3月末、東京に引っ越してすぐ、震度3くらいの地震がありました。芦屋に住む友人に、「東京は地震があつて恐いです。阪神間のおだやかな生活が良かったです」というような手紙を送った記憶があるのですが、1995年1月17日に阪神・淡路大震災がおきてしまいました。阪神間は地震がないと思っていただけに本当にショックで驚きました。



西宮市仁川地滑り資料館
地すべり犠牲者の碑



私たちが甲子園で住んでいたマンションは大丈夫でしたが、もしあのまま暮らしていたら、きっとタンスの下敷きになってケガをしていたと思います。少しの違いで運が良かったです。すぐに東京の住まいではタンスの位置を動かし、非常袋の用意や水の備蓄などなど、いろいろと地震対策をしました。

そして今度は、今年の東日本大震災です。東京で震度5強の揺れはとても大きく長くつづき、本当に恐ろしい思いをしました。

つぎは東京直下か東海・東南海でしょうか。運がいいことを祈るばかりです。

もうひとつ、実は、西宮に住んでいた間に一度だけ、関西支部総会に出席したことがあります。大津の琵琶湖岸のホテルで開催されたときです。

その数年前、私は色彩の勉強をしたいと思い、カラーコーディネーター養成講座を受講しました。その講座を開催していた会社に偶然いらしたのが、28回生の藤井順子さんでした。私の提出した履歴書を見て、高校名は書いてなかったのですが、豊橋出身なら時習館高校？とすぐ思ったそうです。私の方が2年先輩でしたが、私の妹の夫・義弟が藤井さんと同級生で親しかったりして、思わぬご縁に驚き感激しました。

講座が終了した後も、その会社で色彩計画の仕事を、藤井さんのお手伝いとしてさせていただきました。そんな時、どこから情報をいただいたのか全然覚えていないのですが、関西支部の総会があると知り、藤井さんと一緒なら心強く、「行ってみようか」と二人で出かけたのです。

どなたが参加されていらしたのか、これまた全然覚えていなくて申し訳ないのですが、本部から山内洋一先生が来賓で来られていて、藤井さんは担任、私はバスケットボール部の顧問としてそれぞれお世話になっていたもので、久しぶりにお会いできて嬉しく、先生にも大変喜んでいただいたことはよく覚えています。

思えば、今まで私は、高校や大学の同窓生にいろいろと助けてもらってきました。

結婚して、知り合いのいない西宮に住んだ時も、大学の後輩がアルバイトを紹介してくれました。東京に越して来た時も、やはり大学の同窓会に出たことがきっかけで、いい仕事につくことができました。

時習館の東京支部でも、ただの先輩と思っていたら親戚だったりして、つくづく不思議なご縁を感じています。今後もできる範囲で同窓会活動をお手伝いしようと思っています。よろしく願いいたします。



2012年2月25日撮影
現在は東京ドームのすぐ近くに住んでいます

**平成24年度時習館同窓会東京支部
総会・懇親会のご案内**

日時：平成24年8月18日（土）午後1～4時
場所：ホテルニューオータニ「鳳凰の間」
講演：陶山亨（すやまとおる）氏（時習40）

時習40回生が幹事をつとめます。
関西支部の皆さんのご参加を期待しています。



第16回 京都嵯峨野の秋を訪ねて

美馬 洋子（時習11）

この度、紅葉の名所嵯峨野散策を企画しました。嵯峨野は古くより『源氏物語』、『平家物語』また『細雪』などに描かれる全国的にも人気の場所でございます。

○20名の参加で嵯峨野散策

平成23年11月26日（土）晴天に恵まれ、本部より清水さんJNLより三林さんをはじめとして6名の参加を得、また、事務局長他男性4名、JKLより9名の総勢20名がJR嵯峨野駅に集まりました。

○嵐山辨慶から宝厳院へ

一行は大堰川に面した老舗旅館の嵐山辨慶に向かいました。そこで、美味しい京料理を味わい、会話に花が咲き、楽しいひととき、を過ごしたのち、紅葉の美しい宝厳院へ行きました。ここは秋のみ公開の天竜寺塔頭寺院で嵐山を巧みに取り入れた借景式山水庭園です。「獅子吼の庭」は紅葉さかりで大変美しく皆感動した次第です。本堂には田村能里子画伯の「風河燦燦三三自在」と題された襖絵を鑑賞、その後天龍寺へと歩を進めました。

○天龍寺の秋を満喫し帰宅

夢窓国師による庭園（曹源寺）をめぐり、秋の一日を楽しみました。参加された皆さんの顔は紅葉の秋の色に染まり、輝いて見えました。

○次は淡路島「いざなぎ神宮」の公式参拝

名古屋より遠路参加下さり、また男性方も多く迎え、今後JKLはますます発展することと存じます。次回は平成24年4月21日（土）～22日（日）淡路島ウエスティンホテルでの会を企画しています。古事記1300年祭にちなみ、文学散歩としてこの地を選びました。「いざなぎ神宮」の公式参拝も可能とのこと、皆さん奮ってご参加下さい。

淡路島でお会いしましょう。



嵐山料理旅館辨慶にて（ウエスティンホテル淡路・水野支配人を除く、参加者全員）

支部便り・活動報告



関西支部ゴルフ会
報告とお知らせ



ゴルフ幹事 山村 信哉 (時習 17)

関西支部では会員相互の親睦を目的として「ゴルフ会」を開催しています。

老いも若きもゴルフを楽しみませんか。

- ・ 原則、春・秋の2回開催です。
(厳寒・酷暑の時期は避けます)
- ・ 土曜日、日曜日あるいは祝日の開催としています。
- ・ 会場は近隣ゴルフ場を適時使用して行います。

前回のスコアー表

	西	東	GROSS	H・D	NET
優勝	43	39	82	9.2	72.8
2位	45	45	90	14.0	76.0
3位	47	50	97	20.0	77.0
4位	54	61	115	38.0	77.0
5位	42	51	93	15.2	77.8
6位	56	55	111	32.0	79.0
7位	62	65	127	40.0	87.0
8位	72	57	129	40.0	89.0
9位	72	74	146	40.0	106.0

○前回の成績

第22回 (平成23年6月11日)

於 愛宕原ゴルフ倶楽部

昨年は諸般の事情で1回の開催に留まりました。優勝は後半 39 とさすがの腕前を発揮した石川支部長でした。

豊 39 卒の田村英雄氏も元気に参加されました。見事7位賞でした。

《参加者》

田村英雄 (豊 39)、石川 吉之助 (時 12)、
伊藤忠男 (時 13)、園家 文 (時 14)、
柴田太一郎 (時 17)、花井俊作 (時 17)、
山村信哉 (時 17)、井上亮二 (時 18)、
藤井順子 (時 28)

○次回の予定

次回第23回は支部総会の1週間前、6月2日(土)に愛宕原ゴルフ倶楽部で行われます。

登録メンバーには案内を差し上げておりますが、本稿を読んで参加しようと思われた方は下記にお問い合わせください。空席があればエントリー可能かもしれませんよ。

メンバー登録お待ちしております。

連絡先 ゴルフ会幹事

山村 信哉 (時 17)

E-mail : nobu8yama@rose.sannet.ne.jp

Tel& Fax : 0797-74-4858



待望の「時習さろん」誕生

延べ77人が利用

名古屋支部では毎月、中華料理店「頤和園」で「時習亭」をオープンさせ、支部会員の憩いの場所として繁昌していると聞いていました。関西支部でも気楽に語り合える機会があればと考えていたのですが、参加される方がおられるか気にかかり、なかなか踏み切れませんでした。

ところが、平成 23 年度の大阪総会でご講演をお願いした鈴木優氏（時 26）等と、大阪駅構内のホテルグランヴィア大阪 19F で打ち合わせを行ったことがありました。その折、鈴木氏から「総会・懇親会だけでなく、忘年会や新年会みたいな気楽に談笑できる企画があれば参加したいのですが…」との問い合わせがあったのです。そのお話を聞きし「そうかやはり、名古屋支部の『時習亭』が大阪支部にも必要なのだ」と思い知らされました。

○会場はホテルグランヴィア大阪

そこで、思い切って開催することにしましたが、開催場所も、打ち合わせしていたホテルグランヴィア大阪は交通の便も良く、費用も手頃であったことから、ここで良いだろうということになり、トントン拍子でことが運んだのです。

平成 24 年度「時習さろん」開催日

- 第 1 回 平成 24 年 5 月 19 日（土）「総会前夜祭」
- 第 2 回 平成 24 年 9 月 1 日（土）「夕涼み会」
- 第 3 回 平成 24 年 11 月 18 日（日）「秋祭り」
- 第 4 回 平成 25 年 2 月 3 日（日）「新年会」
- 場 所：大阪駅構内ホテルグランヴィア大阪
19F パブレストラン「アブ」
- 時 間：18:00～21:00
- 費 用：¥4,000（¥5,000 の料理を¥1,000 値引き）

開催するにあたり、役員の皆さんと相談した結果、「年 4 回程度開き、状況を確認しては」と言うことになり、次のような計画を立て実施しました。

第 1 回『時習館かんさい』25 号発刊記念&総会前夜祭、第 2 回「夕涼み会」、第 3 回「秋の懇親会& J K L 前夜祭」、第 4 回「新年会」です。

平成 23 年度はテストケース的な実施でしたので、メールでご連絡できる方のみしかご案内ができず、会員の皆さんには大変申し訳なく思っています。今年度は『時習館かんさい』26 号で事前にご連絡いたします。

○年代を超えた語らいの場

昨年度の「時習さろん」には 4 回で延べ 77 人の方がご参加されました。参加された方から「参加する前は心配しましたが、年代を超えた語らいの輪が自然とできて溶け込め、楽しい時を過ごせました」とのお言葉をいただき、企画したものとして、大変喜んでいきます。

平成 24 年度も昨年同様 4 回行う（別表参照）ことにします。皆さん、遊び感覚で是非ご参加ください。また、同年代の年次会やクラス会などにも利用していただければありがたいと思います。



第 1 回「時習さろん」からアルコールも入り陽気な皆さん

事務局から

お知らせとお願い



時習館同窓会関西支部事務局よりのお知らせ

平成23年度総会におきまして、長年役員としてつとめていただきました市村 方子(時4)さんが、この度、ご健康の理由により勇退することが、了承されました。長年お疲れさまでした。この場を借りて、お礼申し上げます。その他の役員変更及び規約の変更はありません。

時習館同窓会関西支部規約

1. (名 称) 本会は時習館同窓会関西支部という。
2. (目 的) 本会は会員相互の親睦を計ることを目的とする。
3. (事 務 局) 〒542-0081 大阪市中央区南船場1-14-1
山本通産株式会社内 (代表者 石川 吉之助) に置く。
4. (会 員) 本会の会員は時習館同窓会員で関西地方に在住する者とする。
5. (役 員) 本会に次の役員をおく。

支 部 長	1 名
副 支 部 長	若干名
理 事	若干名 (うち1名を会計とする)
監 事	若干名
6. (役員) 役員の任期は2年とする。但し再任を妨げない。
7. (役員) 役員は総会において選出する。
8. (役員) 職務
 - (1) 支部長は本会を代表し、会務を報告する。
 - (2) 副支部長は支部長を補佐し、支部長事故あるときは、その職務を代行する。
 - (3) 理事は支部長・副支部長とともに本会業務の運営にあたる。
 - (4) 監事は本会の会計監査にあたる。
9. (総 会) 総会は毎年1回開催する。但し、必要に応じて臨時総会を開催することができる。
総会は支部長が招集する。
総会に提出し、その承認を受けなければならない事項は次のとおりとする。
 - (1) 前年度の会務及び収支決算報告
 - (2) 新年度の収支予算
 - (3) 役員を選任
 - (4) 規約の改廃
 - (5) その他の重要な事項
10. (理 事 会) 理事会は、支部長の招集により開催し、本会の運営および企画の審議にあたる。
理事会は総会にかわって必要事項を議決することができる。但し、その内容を総会に報告しなければならない。
11. (議 決) 会議の議決は、出席会員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは議長が決するところによる。
12. (経 費) 本会の経費は、会費、賛助金、寄付金およびその他の収入金をもってこれにあてる。
13. (会計年度) 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。
14. (規約の変更) この規約は総会の議決によって変更することができる。

会員の動静

《名簿簿から削除》＝カッコ内は理由

☆豊38 小田 稔 (死亡) ☆時41 平松 一衛 (死亡) ☆豊45 井上 及 (退会希望)
 ☆豊49 備藤 恒生 (死亡)

《変更・判明・追加分》

時8	原田伸夫	〒665-0024	兵庫県宝塚市宝梅2-6-26-1522	0797-73-1950
時8	牧野圭一	〒606-0046	京都市左京区上高野諸木町42-1 レジデンス岩倉401	078-582-1126
時13	戸莉 保	〒658-0032	神戸市東灘区向洋町中2-1-215-930	078-857-5346
時13	船橋卓哉	〒584-0061	富田林市伏山三丁目23-17	0721-29-9064
時14	松下和正	〒675-2332	兵庫県加西市鎮岩209の7	079-035-9511
時15	田村駒二郎	〒586-0043	大阪府河内長野市清見台3-7-4	0721-64-0237
時15	平林広幸	〒651-1505	神戸市北区道場町日下部697-29	078-952-3092
時17	山口和夫	〒564-0053	吹田市江の木町16-5-1301	
時18	市原俊彦	〒651-0057	神戸市中央区中尾町10-31 ディオレ新神戸	078-767-0073
時27	戸田 治	〒603-8355	京都市北区平野上柳町18-3	090-1985-8380
時27	山口直子	〒115-0044	東京都北区赤羽南2-4-4	03-3903-4090
時29	安保裕子	〒601-0272	京都市右京区京北下熊田町東旦64-3	
時30	奥山真理	〒600-8812	京都市下京区中堂寺北町7-3 アンクル2階	075-313-9209
時37	磯田規恵	〒546-0035	大阪市東住吉区南田辺二丁目10-19	06-6699-7883
時45	森下亜希子	〒663-8123	兵庫県西宮市小松東町3-8-16	0798-48-4443
時52	伊藤このみ	〒552-0012	大阪市港区市岡2-3-8 402号室	06-6676-5545

他支部へ転出者 ・時12 菅谷智明 (東京) ・時18 鈴木典男 (名古屋)

《住所不明者リスト》

- 豊中～時14
 ☆豊28 加藤 直四郎 ☆豊43 河合 利男 ☆豊45 本田 道夫 ☆時1 宮下 三郎 ☆時2 寺部 芳樹
 ☆時4 服部 光有 ☆時4 岡野 昇
- 時15～時24
 ☆時15 柴田 俊夫 ☆時15 森川 恵子(田中) ☆時16 石黒 和廣 ☆時17 大林 孝彰 ☆時17 夏目 祥宏
 ☆時18 石黒 明 ☆時18 江辺 和子(兵頭) ☆時18 鳥井唱一郎 ☆時19 小久保裕司 ☆時20 二宮 公和
 ☆時20 加藤 道明 ☆時20 小林 俊明 ☆時21 丸尾 則子(柳本) ☆時22 豊田 文彦 ☆時22 鈴木 誠
 ☆時23 河合富美子 ☆時24 原田 典彦
- 時25～時34
 ☆時25 鈴木 克実 ☆時26 鈴木 規文 ☆時27 松本 富夫 ☆時29井口 章 ☆時29 金子 俊一
 ☆時29 真柳 敦夫 ☆時31 安藤 秀高 ☆時31 小早川 泰之 ☆時31 川村 達郎 ☆時31 高柳 和伸
 ☆時31 福田 尚代(斎藤) ☆時31 平松 良平 ☆時32 佐藤 錦一 ☆時33 松下 直昭 ☆時34 佐野 英樹
 ☆時34 柴田 智充
- 時35～時40
 ☆時35 三ツ矢 高章 ☆時37 城田有佳理(浅沼) ☆時37 夫馬 知行 ☆時37 長坂 一郎 ☆時37 糟谷 健二
 ☆時37 丹野 優 ☆時37 磯田 規恵(牧原) ☆時38 吉田 亮子 ☆時38 平尾 好章 ☆時39 小室 志乃(岡田)
 ☆時39 神戸 博央 ☆時39 吉田 幸範 ☆時39 古瀬 勝美・弓絵 ☆時39 高木 勝正
- 時41～
 ☆時41 小笠原 泰三 ☆時42 大隅 正彦 ☆時42 齊藤 祐子(磯部) ☆時43 太田 陽子(高橋)
 ☆時44 高野 公子(石丸) ☆時44 続木 敬洋 ☆時45 田中 亜依 ☆時46 下田 光孝 ☆時46 小森 恭子(秦)
 ☆時46 高橋喜美子(宇野) ☆時48 三浦 由布子(荒島) ☆時50 田卷 文(鶴間) ☆時51 谷本 恵子(清水)
 ☆時51 酒井 隆 ☆時54 山内 大介 ☆時54 松永 良子

会員の皆さん、上記会員の方々の動静をご存じの方がおられましたら、事務局までご連絡いただきたく
 お願い致します。なお、5年以上経過した方は削除いたしました。

皆様ご存じのように関西支部設立50周年の記念事業の一環として『時習館かんさい』17号から19号にかけて豊中、時習館の卒業者名簿を順次掲載しました。会員同士の親睦・交流をより一層深めていただくのが目的で、個人情報保護という点にも配慮しながら、分かる範囲で掲載するよう心がけました。

一連の名簿や変更情報などをご覧になって、あなた自身はもちろん、お知り合いの方に関し、記載事項に間違いを発見されたら、ご面倒でも事務局(山本通産株式会社内 石川支部長)または山村編集委員長まで郵便、FAXまたはEメール(宛て先は『時習館かんさい』表紙右上参照)でご報告願います。

今回の名簿に限りませんが、あなた自身がいずれかへ入学、就職、転任、転居の際、または改姓・改名の時もお知らせくださるようご協力をお願いいたします。

その時は次の6点を明記してご通知ください。

①卒業年次 ②氏名(旧姓も) ③郵便番号 ④現住所 ⑤職業または勤務先(所在地・屋号・職務など)あるいは卒業または在学学校名(詳しく科別も記入) ⑥(公開してもよい)電話番号か携帯電話番号

この名簿は会員相互の親睦と理解を図る目的で編集しています。個人のプライバシー保護には支部としても充分注意しておりますが、会員の皆様も取り扱いにはくれぐれもご注意ください。同窓会関係以外の第三者に閲覧させたり、交付することは絶対にしないでください。

今年も先輩から温かい援助

(平成24年4月 1日現在)

賛助金 9万8000円

今年度も卒業50年を経た先輩方から温かい援助の手が差しのべられています。現時点で、賛助金が46人の先輩から9万8000円寄せられました。本当にありがとうございました。

「先輩たちを元気づけてやろう」というお気持ちで充分です。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

『時習館かんさい』へ投稿してみませんか

自分の書いた文章や写真が冊子になって同窓生の手許に届くと考えるとワクワクしてきませんか？最近感動したこと、学生時代を振り返ってみて思うこと、こんな活動をしています、こんなイベントに参加しました、最近こんなことを考えています、など、気楽に書いて「時習館かんさい」へ是非ご投稿下さい。

☞原稿:1頁で900字~1000字程度が目安です。

「手書き」「ワードかテキストで入力したもの」いずれもOKです。

☞写真:「顔写真」と「文章と共に掲載する写真」を、原稿と共にお送り下さい。

簡単な写真の説明もぜひ添えて下さい。

☞1頁も書くのはなあ…短い文章なら書けるよという場合は、「私の1枚!」のようにお気に入りの写真を紹介していただくような形式もOKです。

原稿、写真は1月末ごろまでに、「Eメール添付」「郵送」「FAX(写真は郵送かEメール添付で)」で、編集委員長までお送り下さい。

〒665-0042 宝塚市逆瀬台1-11-4-1312

編集委員長 山村 信哉

TEL & FAX: 0797-74-4858

E-mail: nobu8yama@rose.sannet.ne.jp

(時習館同窓会関西支部役員一同)

編集余話



文字にして伝える習慣を 『時習館かんさい』の継続を誓い合う

一昨年、朝日奈先生がお亡くなりになられ、『時習館かんさい』を続けることが危ぶまれたのですが、皆様のご協力により、25号、26号と、途切れることなく発刊することができました。この紙面を借りて、お礼申し上げます。

今さらながら、朝日奈先生の「会員の皆さんの情報を文字でお伝えしてこそ、交流が深まる」とのお言葉を、編集委員一同、改めて噛みしめているところです。

ある編集委員会でのことでした。編集の仕事、意外と疲れます。そこで、ちょっと頭をやすめ、英気を養うことにしました。

編集委員の一人が、「言葉だけで伝えること、難しいよね。聞き間違いや、誤解が生まれてしまう」と言い出した。「そうそう、みんな『伝言ゲーム』したことあったかな」「あるある、初めの人に耳うちし、次から次ぎに耳伝えする、あの遊びでしょう」「そう、最初に『サンマがたくさん獲れ、食べきれないので送る』と耳うちし、10人ぐらいに伝えていったかな。『産婆が取り上げたが、払えないので金送れ』に変わっていた。皆で大笑いしたよ」。

そんなやりとりの中で、どの編集委員も、伝言だけでは心許いものなんだと感じていました。

今一人の編集委員から「古代の人はもっと困っていたんだけど思うよ！」と切り出し、こんな話を以下のように披露してくれました。

○木簡には話し言葉の語順で表記されたものが

昨年、関西支部の会員であり、奈良文化財研究所にお勤めの渡邊淳子さん（時習 45）から、「平城宮跡資料館で『秋の企画展』が開催されます」とのお知らせをもらったので、観に行ってきました。テーマは『ことばと木簡』でした。想像ですが、当時は文字が充分発達していなかった時、一般の人たちは、耳から耳へ言い伝える慣わしでしたので、多くの人を介してことづけられた末には、

似ても似つかない内容になり、失敗も数多くあった気がします。そこで、絵や文字を工夫し、正確に伝えたいと思ったに違いありません。それには、当時、中国から伝わっていた漢字をなんとか利用し、木簡に書きつけたのでは…その会場で、「木簡はメモなんです」との説明を受けました。

当時、知識階級は漢文で外交文書などを書いていたので、語順は「主語、述語、目的語」でした。ところが庶民や下級・中級官僚がメモ代わりに使った木簡は、「文章を話し言葉の順序（主語、目的語、述語）に変えて使ったり、漢字の『当て字』を多く使ったりしている」と説明書にもあり、木簡には昔の庶民や下級・中級官僚が『どうしたら、間違いなく伝えられるか』と、真剣に考え、悩み、工夫に工夫を重ねた跡が残っているような気がして、見入っていました。その苦肉の策の中から万葉仮名が生まれたようです。

ところで、最近はどうかな、「電話が普及し、手紙を書かなくなってしまい、文字使用が疎かになったね」「いや、ごく最近では、メールで気軽に意志を伝えている。これは、文字で伝達する習慣に戻ってきているのかもしれないよ」などの意見が出ました。「メールは手軽だけど、一瞬さっと読むだけで、消すこともよくある。言葉での伝言と余り違いがない。それに、書き間違いも多い」との反論があり、「文字伝達の再認識とは行かない」との意見が大勢を占めていた気がします。できるかぎり、文字にして書き留める習慣を持ちたいということで一致しました。

こんなやり取りも編集委員会の楽しみの一つです。ほんの少しの間の気分転換でした。

震災の記憶や復興の足跡も、今は簡単に書き留め、後の世に正確に伝えられます。

私たち編集委員は「文字・書き言葉を大切にし、会員の皆さんの情報や意志を正確に伝えるものとして『時習館かんさい』をいつまでも存続させたい」と改めて誓い合ったのです。

編集委員会

